

重要文化財
青森県是川遺跡出土品
活用報告書



八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

重要文化財
青森県是川遺跡出土品
活用報告書

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

目 次

1. 是川遺跡と出土品の概要	1
2. 活用の概要	5
展示公開施設の整備	6
3. 活用の状況	14
(1) 復元製作とレプリカ製作	14
(2) 調査研究	18
(3) 展示公開	25
刊行物	43
(4) 地域連携など	44
4. 参考文献	47

例 言

1. 本書は、重要文化財「青森県是川遺跡出土品」及び是川中居遺跡出土品（縄文時代に限る）の活用について報告するものである。
2. 活用一覧の主催・会場・資料名は、当時の利用先の名称に従っている。
3. 活用一覧の点数は重要文化財青森県是川遺跡出土品と是川中居遺跡出土品で縄文時代のもの、またはそのレプリカ・復元品をカウントしている。
4. 活用一覧の重文の点数は利用時に指定されていたものをカウントしている。
5. これらの資料は、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（八戸市大字是川字横山1 TEL 0178-38-9511）において収蔵、展示している。

1. 是川遺跡と出土品の概要

是川遺跡は、青森県の太平洋側に位置する八戸市の是川地区に所在する、縄文時代を中心とした集落遺跡である。是川遺跡は、縄文時代前期後半から後期前葉の一王寺遺跡、中期末の堀田遺跡、後期末から晩期の中居遺跡という3遺跡の総称である。

1897（明治30）年には人類学者の八木奘三郎により土偶の出土が伝えられ、人類学者の石田収蔵による1913（大正2）年の発掘を皮切りに、土地所有者の泉山氏や、大山史前学研究所、東北帝国大学によって発掘が行われ、一王寺・堀田・中居のそれぞれで重要な発見があった。

一王寺遺跡では縄文時代の貝塚が発見され、貝層から見つかった土器を下層式、その上部の地層から見つかった土器を上層式として円筒式土器が設定された。堀田遺跡は、宋銭と縄文土器の共伴から、縄文時代の終末を巡る「ミネルヴァ論争」の舞台となった。そして中居遺跡は、かつて「特殊泥炭層」と呼ばれた低湿地の中から、鮮やかな漆器や木製品が当時の形のまま多数出土し、先史時代のイメージを一新した遺跡として知られている。1932（昭和7）年には、その重要性と保存を伝える「是川遺跡記念碑」が建立され、1933（昭和8）年には出土品のうち漆塗り製品等が重要美術品に指定された。また、遺跡は1957（昭和32）年に「是川石器時代遺跡」として国史跡に指定された。

1961（昭和36）年に泉山家は、全ての出土品を八戸市に寄贈し、市は是川遺跡出土品の目録作成と適切な保存を担うこととなった。目録の作成は慶應義塾大学考古学研究室と地元の研究者によって進められ、翌1962（昭和37）年には出土品のうち633点が「陸奥国是川遺跡出土品」として重要文化財に指定された。これらの出土品は、1963（昭和38）年に開館した是川考古館に収蔵展示された。



空からみた是川遺跡
JOMON ARCHIVES より



是川遺跡記念碑



大正・昭和年間の発掘風景

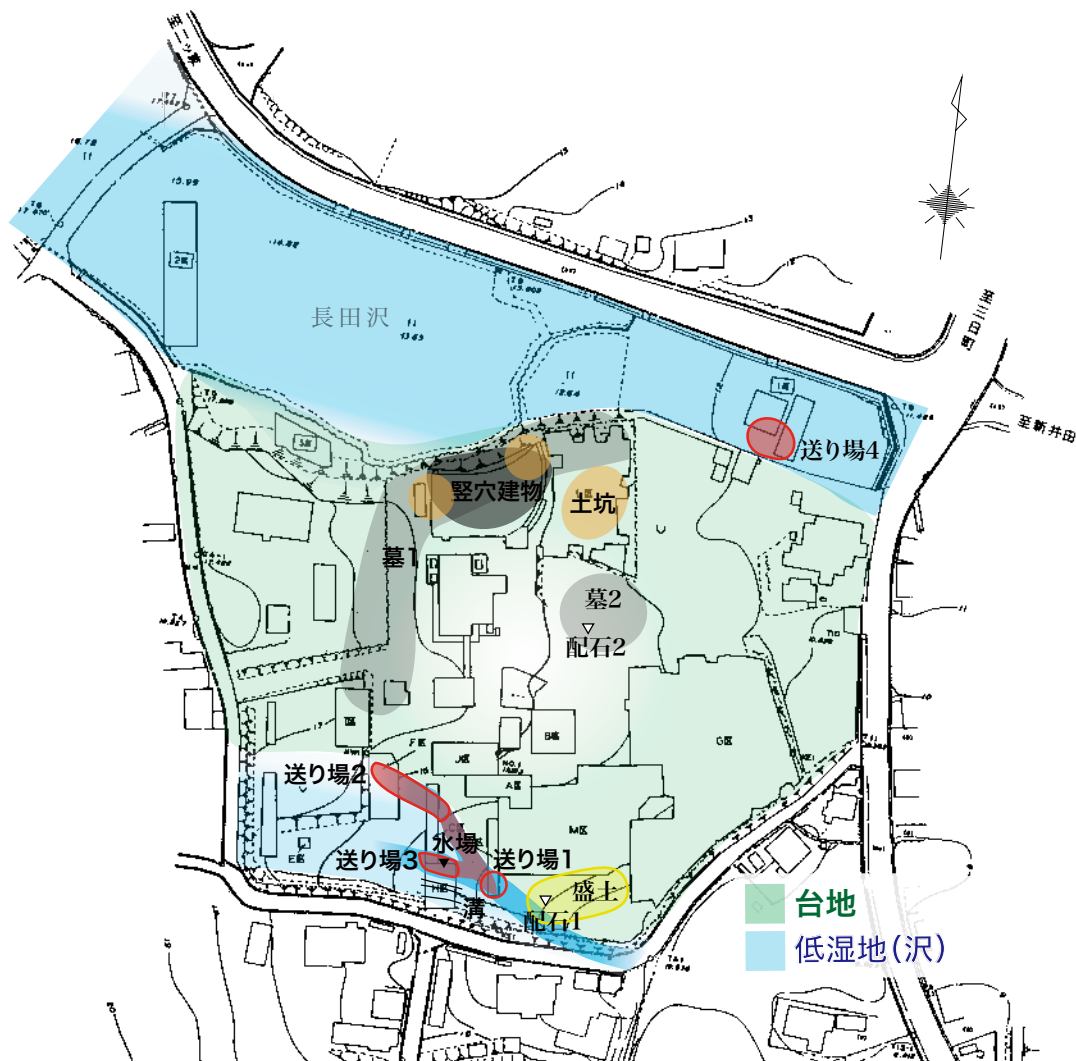
是川遺跡と出土品の概要 (2)

その後、1975（昭和50）年に、幅広い文化財の保存と活用を行うため、歴史民俗資料館を設置した。1983（昭和58）年には、八戸の歴史と民俗を総合的に扱う博物館が、史跡根城跡と一体的に整備されたことにより、歴史民俗資料館では、是川遺跡の展示の充実がさらにはかれることとなった。また、風張1遺跡の発掘や、合掌土偶の発見、そして東北新幹線八戸延伸決定を契機として、八戸市は1994（平成6）年に体験学習機能を備えた縄文学習館を設置した。



木胎漆器（鉢）出土状況

八戸市は、1997（平成9）年に「是川縄文の里整備構想」を策定し、同構想を元に、1999（平成11）年から是川石器時代遺跡の本格的な発掘調査を行った。発掘調査は、低湿地から始まり、台地の未調査部分へと進められた。発掘調査により、中



縄文時代晩期中居遺跡

居遺跡の低湿地からは縄文時代晩期前半の土器・土偶・木製品・漆製品・編組製品・木材が当時の色彩や形状を保ったまま出土した。台地部分では竪穴建物跡や土坑墓のほか配石遺構を検出し、中居遺跡が多様な施設を有する縄文時代晩期の集落跡であることが確認されたのである。こうした発掘調査の成果により史跡の追加指定がなされ、出土品は2011（平成23）年に「青森県是川遺跡出土品」と主名称の旧国名を県名に改めるとともに、330点が重要文化財に追加指定された。

八戸市はこうした発掘調査の成果を展示公開し、是川遺跡の史跡整備を推進する中核施設として、2011（平成23）年に、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館を設置した。青森県是川遺跡出土品は、是川縄文館にて収蔵・展示している。



土器（壺・注口）



赤色漆塗り土器（壺・注口）



腕輪・耳飾り・櫛・編布



篋形木製品



耳飾り



腕輪



木製品 (石斧柄・ヤス軸・掘り棒・飾り太刀)



壺形土器



皿形土器



遮光器土偶

2. 活用の概要

是川遺跡出土品は、これまでに整備してきた4つの施設における公開や貸出公開といった活用のほか、復元製作やレプリカ製作を行い、発掘調査の成果と合わせ、遺跡や出土品をテーマとしたシンポジウムやトークイベント、新聞社と共同で漆調査プロジェクトを実施するなど多角的な活用をはかってきた。

是川縄文館の開館後は、出土品に関する調査研究を推進し、その成果を展示や史跡整備に活用している。また、是川遺跡に関する講演の依頼は毎年あり、是川縄文館の開館から2024年度までの14年間で162件（市外23件、市内139件）を実施し、遺跡や出土品の魅力や重要性を伝える機会となっている。

このうち、2017年度からは是川遺跡をテーマとした放送大学面接授業を学芸員が受け持っている。

○是川遺跡出土品の活用（概略）

- 1897 八木契三郎により是川村から出土した遮光器土偶が紹介される
- 1898 『日本石器時代人民遺物発見地名表』に「是川」が掲載される
- 1920 泉山兄弟により中居が発掘される（～1933）
- 1929 是川遺跡出土品が「原始文化展覧会」に出品される
大山史前学研究所が中居の低湿地から植物性遺物を発掘する
- 1930 史前学会『史前学雑誌』「是川遺跡研究号」
- 1932 喜田・杉山『日本石器時代植物性遺物図録』
是川遺跡記念碑の建碑式
- 1933 是川遺跡出土品のうち、漆塗り製品等が重要美術品に指定される
- 1957 「史跡是川石器時代遺跡」史跡指定
- 1961 泉山兄弟による是川遺跡出土品が八戸市に寄贈される
- 1962 「陸奥国是川遺跡出土品」633点が重要文化財に指定される
- 1962 「是川遺跡出土品」保存修理事業を開始
- 1963 是川考古館が開館（地図①）
- 1975 八戸市歴史民俗資料館が開館（地図②）
- 1994 八戸市縄文学習館が開館（地図③）
- 1997 是川縄文の里整備構想
- 1999 中居遺跡の内容を確認する発掘調査（～2005）
- 2003 「是川縄文シンポジウム」（～2007）
- 2004 是川中居遺跡出土品復元製作（～2008）
- 2004 「是川遺跡ジャパンロード [漆の道] 調査」（～2006）
- 2006 是川中居遺跡出土品複製品製作（～2008）
- 2008 「是川公開トーク」（～2009）
- 2011 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が開館（地図④）
- 2011 重要文化財が「青森県是川遺跡出土品」に改称され330点が追加指定される

展示公開施設の整備 (1)



是川遺跡出土品の活用施設
Map data from OpenStreetMap

是川考古館 1963 (昭和 38) 年開館



是川考古館入館券



是川考古館リーフレット



是川考古館展示室 (2002年
渡り廊下付近)



是川考古館展示室 (2002年)



是川考古館展示室 (2011年)

八戸市歴史民俗資料館 1975 (昭和 50) 年開館



歴史民俗資料館展示室 (1975 年 2 階展示室)



歴史民俗資料館入館券

八戸市立 歴史民俗資料館


是川遺跡発掘調査報告書 八戸市立歴史民俗資料館

歴史民俗資料館と是川考古館について

沿革

当館に収蔵されている是川遺跡の出土品は、是川(中川)遺跡の旧所有者だった故郷山岩次郎氏とその義弟故郷山要次郎氏によって発掘収集されたものです。両氏は、大正9年から長年にわたって遺物の収集保存に努めてきましたが、経費の保存と学術的活用をはかるため、昭和36年にそのすべてを八戸市に寄贈し、その保存展示施設として昭和38年に是川考古館が建設されました。

その後、昭和50年に歴史民俗資料館が建設されて考古館は資料館の付属施設となり、八戸市の歴史に関する資料や民俗文化財もあわせて展示してきましたが、昭和58年4月からは博物館の分館として、ふたたび是川遺跡に関する資料だけを収蔵展示しています。収蔵品の総数は約6,000点にのぼり、そのうち633点が昭和37年に国の重要文化財に指定されました。



是川遺跡のあらまし

是川遺跡というのは、中川遺跡、一王寺遺跡、根田遺跡の総称で、昭和32年に「是川前期時代遺跡」の名称で、一括して国の史跡に指定されました。

三つの遺跡のうち、中川遺跡は縄文時代晩期の遺跡で、貴重な遺物が数多く出土していることで世界的に知られており、ふつう是川遺跡といえどこの中川遺跡のことをさしています。とりわけ、遺跡の一部にある特殊な土層とそこから出土した植物性の人工遺物は、他にあまり例を見ないもので重要視されています。

一王寺遺跡からは民屋が発見されているほか、縄文時代中期の土器や骨角器が出土したことで有名です。

根田遺跡は、縄文時代中期から晩期までの複合遺跡で、集石遺構や住居跡が発見されています。

資料館建設概要

所在地 八戸市大字是川中町3-1
 管理者 八戸市教育委員会(八戸市博物館)
 構造 鉄筋コンクリート2階建、正倉庫風、高床式、切妻造
 工期 昭和48年9月15日～昭和49年3月31日
 開館 昭和50年5月10日
 総工費 66,600,000円(内装、附属施設を含む)
 設計 株式会社建築設計事務所(東京)
 施工 建物 株式会社工務店(八戸) 内装 株式会社(仙台)

歴史民俗資料館リーフレット



歴史民俗資料館展示室 (2002年 1階展示室)



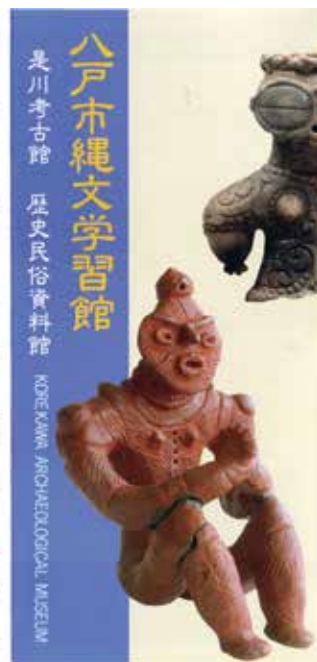
是川考古館展示室 (2010年 2階展示室)

展示公開施設の整備 (5)

八戸市縄文学習館 1994 (平成6) 年開館



縄文学習館展示室 (2004 年)



縄文学習館リーフレット

縄文学習館観覧券



縄文学習館リーフレット



縄文学習館展示室 (2004年)



縄文学習館展示室 (2010年)



体験学習室 (2007年)



縄文学習館展示室 (2012年)



縄文学習館展示室 (2012年)



縄文学習館展示室 (2012年)

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2011（平成 23）年開館



是川縄文館 1 階アトリウム展示



是川縄文館アトリウム



是川縄文館常設展示室 (2011年)



是川縄文館常設展示室 (2023年)



是川縄文館常設展示室 (2011年)



是川縄文館常設展示室 (2021年)



是川縄文館常設展示室 (2011年)



是川縄文館常設展示室 (2019年)



是川縄文館常設展示室 (2011年)



是川縄文館企画展示室 (2011年)

3. 活用の状況 復元製作とレプリカ製作 (1)

3. 活用の状況

是川遺跡出土品は、(1) 復元製作とレプリカ製作、(2) 調査研究、(3) 展示公開、(4) 地域連携などによって活用をはかってきた。

(1) 復元製作とレプリカ製作

平成年間の発掘調査出土品（後の重要文化財追加指定品）は、復元製作やレプリカ製作を行い、その成果品を使った出張展示やトークイベントを開催したほか、常設展示や企画展示資料として活用をはかっている。

復元製作は、樹種同定や塗膜構造分析などの結果から、縄文時代と同様の素材を使って復元を試みたものであり、素材加工と復元漆器作りの経験を有する八幡平市安代漆工技術研究センターが製作を行った（表1・2）。復元製作の実施により、是川の縄文人が素材の採取に適した時期を選定し、加工技術など自然利用に関する高度な技術と知識があったことを明らかにすることができた。

レプリカ製作は、保存処理が完了した一部の出土品を型取りし、樹脂で製作したものであり、重量以外は、ほぼ実物と同様に仕上げたものである（表1・2）。

表1 復元製作とレプリカ製作

○復元製作

年度	点数	事業費	製作品	製作
2004	4	1,470,000	木胎漆器（鉢・台付皿）各2（縄文技法・現代技法）	八幡平市安代漆工技術研究センター
2005	4	1,750,000	木胎漆器（浅鉢・皿）、樹皮製容器（大・小）	八幡平市安代漆工技術研究センター
2006	5	1,820,000	木胎漆器（鉢）、籃胎漆器（鉢）、弓、耳飾り（大・小）	八幡平市安代漆工技術研究センター
2007	10	2,480,000	籃胎漆器（壺）2、弓、腕輪3、櫛4	八幡平市安代漆工技術研究センター
2008	6	1,720,000	木胎漆器（台付皿）、木製皿、ヤス、石斧柄、籠形木製品、飾り太刀（未製品）	八幡平市安代漆工技術研究センター

○レプリカ製作

年度	点数	事業費	製作品	製作
2001	2	987,000	木胎漆器（鉢）、櫛、耳飾り	株式会社東都文化財保存研究所
2006	13	11,203,500	耳飾り、櫛2、ヤス軸柄5、ヤス先、樹皮製容器4	株式会社東都文化財保存研究所
2007	9	8,495,000	木胎漆器（台付皿・鉢・皿・浅鉢）、腕輪2、弓、籃胎漆器（壺）2	株式会社芸匠
2008	9	8,452,500	掘り棒、木製容器2、飾り太刀（未製品）、石斧柄、樹皮製容器2、弓2	株式会社芸匠

○漆塗り樹皮製容器の復元製作工程 (2005 年)



復元した樹皮製容器 (出土状況)



ケヤキ樹皮のはぎとり



加工した樹皮の曲げ加工



樹皮の綴り合わせ



黒色漆塗り



赤色漆塗り (彩文)



復元製作した樹皮製容器



復元製作した樹皮製容器 (彩文)

復元製作とレプリカ製作 (3)



復元製作した是川遺跡出土品



復元製作品の展示紹介 (2008 年)



復元製作品の展示紹介 (2008 年)



是川公開トーク (2009 年)

表2 復元製作とレプリカの一覧

No.	資料	原資料 ID	復元品 ID	復元 製作年	レプリカ ID	レプリカ 製作年
1	籃胎漆器 (鉢)	344	6947	2006	-	-
2	籃胎漆器 (壺)	892	6949	2007	20185	2007
3	籃胎漆器 (壺)	893	6948	2007	20186	2007
4	木胎漆器 (浅鉢)	898	6944	2005	20187	2007
5	木胎漆器 (台付皿)	900	6946,7182	2004	20188	2007
6	木胎漆器 (鉢)	902	6942,7181	2004	20089	2001
7	木胎漆器 (皿)	903	6945	2005	20189	2007
8	木胎漆器 (鉢)	905	6943	2006	20190	2007
9	木胎漆器 (台付皿)	901	7172	2008	-	-
10	樹皮製容器残欠 (彩文) 蓋	906	-	-	20191	2008
11	樹皮製容器 (彩文)	906,908	20094	2005	-	-
12	樹皮製容器残欠 (彩文) 本体	908	-	-	20192	2006
13	樹皮製容器	914 他	6941	2005	-	-
14	樹皮製容器残欠 本体 (表)	914	-	-	20193	2006
15	樹皮製容器残欠 本体 (裏)	914	-	-	20194	2006
16	樹皮製容器残欠 蓋	915	-	-	20195	2008
17	樹皮製容器残欠 蓋側板	926	-	-	20196	2008
18	櫛	939	6952	2007	20093	2001
19	櫛	941	6953	2007	20088	2006
20	櫛	942	6954	2007	20098	2006
21	櫛	943	6955	2007	20197	2006
22	耳飾	945	6959	2006	20087	2001
23	耳飾 (小)	946	6960	2006	20198	2006
24	腕輪	947	6956	2007	20086	2007
25	腕輪	948	6958	2007	-	-
26	腕輪	951	6957	2007	20199	2007
27	弓	963	6951	2007	20200	2008
28	弓	967	6950	2005	20201	2007
29	弓	968	-	-	20202	2008
30	木製容器 (鉢)	820	-	-	20177	2008
31	木製容器 (台付皿)	821	7173	2008		
32	飾り太刀 (未製品)	823	7176	2008	20178	2008
33	籠形木製品	373	20175	2008		
34	石斧柄	832	7174	2008	20179	2008
35	掘り棒	833	-	-	20180	2008
36	ヤス	839 他	7175	2008	-	-
37	ヤス軸柄	839	-	-	20090	2006
38	ヤス軸柄	840	-	-	20181	2006
39	ヤス軸柄	841	-	-	20182	2006
40	ヤス軸柄	842	-	-	20183	2006
41	ヤス軸柄	843	-	-	20184	2006
42	ヤス軸 (ヤス先)	844	-	-	20176	2006

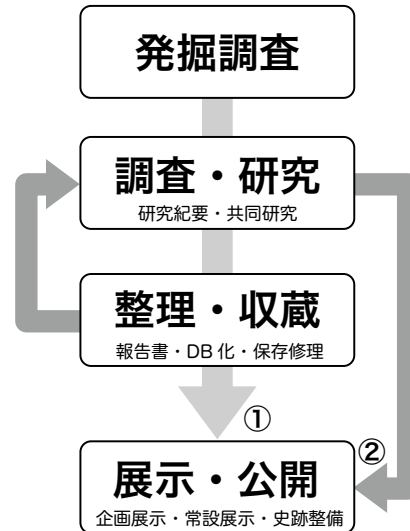
調査研究 (1)

(2) 調査研究

是川遺跡は縄文文化の研究上、重要な資料が多数出土した遺跡であるため、その出土品に関して多様な研究がなされている。

是川縄文館では、発掘調査から展示公開といった第一段階の活用だけではなく、整理・収蔵した資料を調査研究することにより、第二段階の活用をはかっている。

学芸員による調査研究のほか、是川遺跡出土品について、他機関との共同研究を実施し、その成果を企画展示として発表し、研究論文にまとめている。こうした研究成果は研究紀要に掲載し、史跡整備や今後の展示改修に活用することとなっている。



是川縄文館における二段階の活用

○是川遺跡出土品に関する主な論考等

大山柏（編） 1930 『史前学雑誌』第2巻第4号 史前学会

大里雄吉 1927 「陸奥国是川村中居遺跡石器時代遺跡発見の植物質遺物に就いて」『歴史地理』第49巻第6号 日本学術普及会

河村末吉 1901 「陸奥国三戸地方に於ける石器時代遺物に就いて」『東京人類学会雑誌』第16巻第179号

喜田貞吉 1929 「青森県是川村石器時代遺跡の一大新発見（報道）」『東北文化研究』第1巻第5号

喜田貞吉・杉山寿栄男 1932 『日本石器時代植物性遺物図録』刀江書院

喜田貞吉 1933 「本山翁と「是川遺跡」」『史前学雑誌』第5巻第1号

喜田貞吉 1936 「日本石器時代の終末期に就いて」『ミネルヴァ』第1巻第3号 翰林書房

喜田貞吉 1936 「「あばた」も「えくぼ」、「えくぼ」も「あばた」－日本石器時代終末期問題－」『ミネルヴァ』第1巻第5号 翰林書房

喜田貞吉 1936 「又も石器時代遺跡から未銭の発見」『ミネルヴァ』第1巻第6・7号 翰林書房

清水潤三 1966 『是川遺跡』美術文化シリーズ13 中央公論美術出版

杉山寿栄男 1927 「石器時代の木製品と編物」『人類学雑誌』第42巻第8号 東京人類学会

杉山寿栄男 1928 『日本原始工芸概説』工芸美術研究会

杉山寿栄男 1933 「是川遺跡記念碑と本山松蔭先生」『史前学雑誌』第5巻第1号

杉山寿栄男 1942 『日本原始繊維工芸史 原始篇』雄山閣

鈴木克彦 2007 『注口土器の集成研究』雄山閣

鈴木克彦（編） 2012 『縄文琴の研究：青森県八戸市是川中居遺跡出土篋形木製品に関する研究報告書』弘前学院大学地域総合文化研究所

鈴木克彦 2015 『遮光器土偶の集成研究』弘前学院大学出版会

長谷部言人 1927 「円筒土器文化」『人類学雑誌』第42巻1号 東京人類学会

福田友之 2015 「第5節 是川石器時代遺跡－史跡指定までの調査・研究－」『青森県の考古学史ノート』北方新社

- 保坂三郎 1972『是川遺跡』中央公論美術出版
 山内清男 1930「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第1巻第3号 東京考古学会
 山内清男 1930「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌』第1巻第2号
 山内清男 1936「日本考古学の秩序」『ミネルヴァ』第1巻第4号 翰林書房
 山内清男 1936「考古学の正道－喜田博士に呈す－」『ミネルヴァ』第1巻第6・7号 翰林書房
 宮坂光次 1930「青森県是川村一王寺史前時代遺跡発掘調査報告」『史前学雑誌』第2巻第6号
 八木奘三郎 1897「共同備忘録」『東京人類学会雑誌』第13巻第139号

○是川縄文館研究紀要における是川遺跡出土品に関する論考

『研究紀要』第3号 平成26年(2014)3月

河野摩耶・南武志・根岸洋・市川健夫 「風張1遺跡・中居遺跡出土の土器付着赤色顔料の成分分析と同位体分析」

『研究紀要』第9号 令和2年(2020)3月

関根達人・近藤美左紀・柴正敏 「火山ガラス分析を用いた南部地方の土器の胎土に関する基礎的研究」
 小久保拓也 「是川遺跡の土器と聖火筒」

『研究紀要』第10号 令和3年(2021)3月

佐藤ちひろ・大野亨 「是川遺跡100年のあゆみ」

『研究紀要』第11号 令和4年(2022)3月

関根達人・柴正敏 「火山ガラス分析を用いた南部地方の土器の胎土に関する基礎的研究」
 佐宗亜衣子・米田穰 「青森県八戸市出土の人骨資料－東京大学総合研究博物館収蔵標本－」
 阿部芳郎・本多貴之・蒲生有佳・永井義隆・小久保拓也 「青森県是川中居遺跡における漆塗土器の研究」

『研究紀要』第12号 令和5年(2023)3月

阿部芳郎・米田穰 「是川中居遺跡から出土した縄文晩期土器の土器付着炭化物の同位体分析」
 宮腰哲雄・阿部芳郎・新村典康・山田千里 「是川中居遺跡から出土した漆塗り土器片の科学分析と特徴」

『研究紀要』第13号 令和6年(2024)3月

佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一・小久保拓也・澁谷侑奈 「中居遺跡出土の編組製品の素材植物種」
 落合美怜・佐々木由香 「是川遺跡出土の土器底部敷物圧痕からみた編組技法について」

『研究紀要』第14号 令和7年(2025)3月

佐々木由香・片岡太郎・小林和貴・鹿納晴尚・小久保拓也・能城修一・落合美怜 「X線CT画像解析による縄文時代の籃胎器の技法－八戸市中居遺跡と一戸町山井遺跡を中心に－」
 阿部芳郎・高橋満・米田穰・宮内慶介・小久保拓也 「東北地方北半における縄文時代土器製塩の研究～八戸市中居遺跡出土の製塩土器と階上町寺下遺跡の製塩跡～」

○是川縄文館共同研究

これまでに、是川遺跡を含む、八戸市内の遺跡や出土品を研究資料として、4期の共同研究を実施し、令和7年度から第5期の共同研究を推進している（表3）。是川遺跡出土品に関する研究は第3期から取り組んでおり、出土品から考古学研究に資する新たな情報を引き出している。

表3 是川縄文館共同研究一覧

	年度	テーマ	研究体制
第1期	2011(H23)～ 2013(H25)	古八戸湾の変遷と集落生態系の復元	東京大学大学院新領域創成科学研究科 辻誠一郎ほか
第2期	2014(H26)～ 2016(H28)	八戸地域における縄文時代中期から晩期の環境変動と集落生態系の復元	
第3期	2018(H30)～ 2021(R3)	火山ガラスからみた八戸地域における土器の変遷と地域間交流の解明	弘前大学大学院人文社会科学研究科 関根達人・同理工学研究科 柴正敏
第4期	2022(R4)～ 2024(R6)	編組技法からみた縄文時代の技術知の解明	金沢大学人間社会研究域附属古代文明・ 文化資源学研究所 佐々木由香ほか
第5期	2025(R7)～ 2027(R9)	縄文時代の櫛と漆混和材	

○第1期・第2期共同研究

集落生態系を復元し、それを画像にすることを目的とした。それまでの発掘調査成果と新たなボーリング調査により、年代測定、花粉・種子分析、木材遺体、植物珪酸体を総合的に研究し、ドローンによる3次元画像をベースに、是川遺跡を含む八戸地域の環境変動と「集落生態系」を描き出した。集落生態系とは、“集住する人びとの生活に関わる機能的な空間の総体”であり、八戸地域は十和田火山の活動という環境変動と深く関係しながら、集落生態系を変化させていたことが明らかになった。

現在の海岸線から7kmの距離にある一王寺遺跡の貝塚は、縄文海進によって形成され、海退や十和田火山の影響を免れた内湾から食料資源を獲得した結果であり、同時に検出した花粉から、集落とその周辺にクリ・ウルシ林を維持・管理していたことを提示することができた。中居遺跡は、低湿地から出土する木製品・編組製品、種子や花粉の分析から、有用植物ばかりが集落とその周辺に維持・管理されていることが分かり、生物資源獲得戦略の集大成を確認することができた。こうした情報と3次元画像を元に景観図が作成され、特定の季節や空間・作業に焦点を絞り、復元画家による生活景観図を描き出すことができた。これらの成果は是川縄文館研究紀要及び2014（平成26）年度・2017（平成29）年度企画展で公開した。

○第3期共同研究

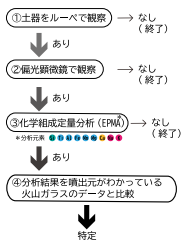
火山ガラスからみた八戸地域における土器の変遷と地域間交流の解明を目的とした。火山ガラスの化学組成は、火山やその噴火イベントごとに差があることから、火山ガラスの化学組成に基づき粘土の採取場所と製作年代の上限を特定することが可能である。

八戸市を中心に縄文時代草創期から平安時代までの、低い温度で焼成された土器の胎土の分析により、縄文早期中葉土器群の製作年代を明らかにすることができた。土器の製作地に関しては、縄文時代早期から11世紀後半まで一貫して地元（南部地方）で製作された土器が主体だが、縄文前期中葉から中期中葉と、縄文後期後葉から晩期中葉の時期に限って、少数ではあるが津軽地方からの土器の搬入、あるいは粘土と人（製作技術）の移動があったことを明らかにすることができた。また、縄文時代中期以前の土器には2種類以上の火山ガラスが含まれることがあるが、縄文時代後期以降の土器に含まれる火山ガラスは1種類であることが分かり、粘土の採取場所など、土器作り技術に変化がみられることを明らかにすることができた。これらの成果は是川縄文館研究紀要及び2022（令和4）年度特別展で公開した。

II 火山ガラスと土器を調べる

1. 火山ガラス分析の流れ

最初に、ルーペで土器の表面や断面を観察し、火山ガラスが肉眼で見えるかどうかを確認します。ルーペで火山ガラスが確認できた場合、その土器からプレパラートを作って偏光顕微鏡で観察し、火山ガラスを確認します。さらに、化学組成分析を行い、噴出元がわかっている火山ガラスの組成と比較することで、火山ガラスを特定します。



是川縄文館での調査風景
写真提供：岡根進人氏

2. 顕微鏡とEPMAで火山を特定する

電子線プローブマイクロアナライザー (EPMA) とは、電子線を照射することで物質表面の元素を計測し、化学組成を明らかにする機器です。この機器で検出された元素を、ハーカー図と呼ばれる分布図に示します。8つの組み合わせによる分布図でマグマの化学的な特徴を調べ、噴出元がわかっている火山ガラスのデータと比較すると、火山ガラスの噴出元を明らかにすることができます。



弘前大学理工学部のEPMA
JEOL-JXA8800 RL (波長分散型4チャンネル)
写真提供：松正純氏

4. 文化圏内で移動した土器

五所川原市の五月女遺跡は、津軽半島北部の十三湖北岸にある縄文晩期を中心とする遺跡です。不備無遺跡は陸奥湾北岸、下北半島のむつ市川内町の宿野部川河口付近にある縄文晩期の遺跡です。胎土分析の結果、五月女遺跡出土土器は、聖山式土器を含め遺跡周辺で製作されたことが分かりました。一方、不備無遺跡からは下北半島には分布しない津軽地域由来の火山ガラスを含む土器が見つかり、津軽地方からの搬入品と判明しました。胎土分析により、土器の顔つきからは分からない同じ土器文化圏内の土器の移動の実態がつかめました。



平鏡海城 (2022年5月撮影) 左：津軽半島 右：下北半島



遺跡の位置と火山灰分布
松正純・岡根進人 2015 『考古学と自然科学』 67 を元で作成

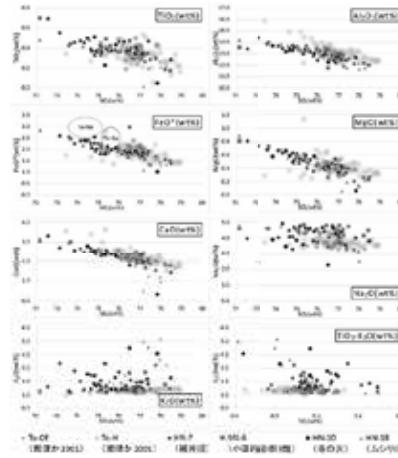
3. 噴火ごとに違う火山ガラス

噴出した火山ガラスの化学組成は、火山ごと、噴火ごとに違います。国内の様々な火山ガラスの化学組成を分析し、データベース化する研究が進められています。

HNF38	十和田南部テフラ									
	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	Total
最小値	74.59	0.45	13.00	2.57	0.05	0.55	2.60	4.50	1.36	
最大値	74.83	0.51	13.20	2.57	0.06	0.57	2.62	4.58	1.38	
平均値	74.71	0.48	13.10	2.57	0.06	0.56	2.61	4.54	1.37	100.00
標準偏差	0.17	0.05	0.15	0.00	0.00	0.02	0.01	0.06	0.01	0.00

HNF28	十和田中層テフラ									
	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	Total
最小値	73.75	0.37	11.28	1.94	0.06	0.33	2.13	4.16	1.35	
最大値	76.25	0.54	13.16	3.59	0.28	1.96	3.25	4.44	1.50	
平均値	75.35	0.47	12.41	2.53	0.16	0.81	2.50	4.33	1.44	100.00
標準偏差	1.12	0.07	0.85	0.74	0.09	0.77	0.53	0.12	0.07	0.00

十和田南部テフラ・十和田中層テフラの火山ガラスの化学組成
関根ほか 2020 『八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館研究紀要』 第9号より



ハーカー図 (*分析元素組成: SiO2, TiO2, Al2O3, FeO, MnO, MgO, CaO, Na2O, K2O)
関根ほか 2019 『八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館研究紀要』 第8号より

6. 土器づくりの変化

縄文時代中期より前の八戸地域の土器には、二種類以上の火山ガラスがみられますが、縄文時代後期より後は、火山ガラスが一つの種類しかみられないことが分かりました。粘土を取る場所が、別々の火山ガラスが集まりやすい川の近くから、山の崖などへと変わったため、火山ガラスが一つの種類になったと考えられます。

また、縄文時代晩期中頃までの土器には、津軽地域に広がる火山ガラスがみられますが、それ以降の土器は十和田系の火山ガラスのみになることが分かりました。晩期中頃を境に、粘土を取る場所や方法が変わったことや、津軽地域との土器の移動が少なくなったことが考えられます。

土器の年代	みつかった火山ガラス	粘土をとる場所
～縄文時代中期	二種類以上	川や山
縄文時代後期～	一種類	山
土器の年代	みつかった火山ガラス	津軽地域との土器の移動
～縄文時代晩期中頃	十和田系の火山ガラス 津軽地域の火山ガラス	ときどき
縄文時代晩期中頃～	十和田系の火山ガラス	ない

第3期共同研究 (特別展示図録『行きかう土器とヒト』より)

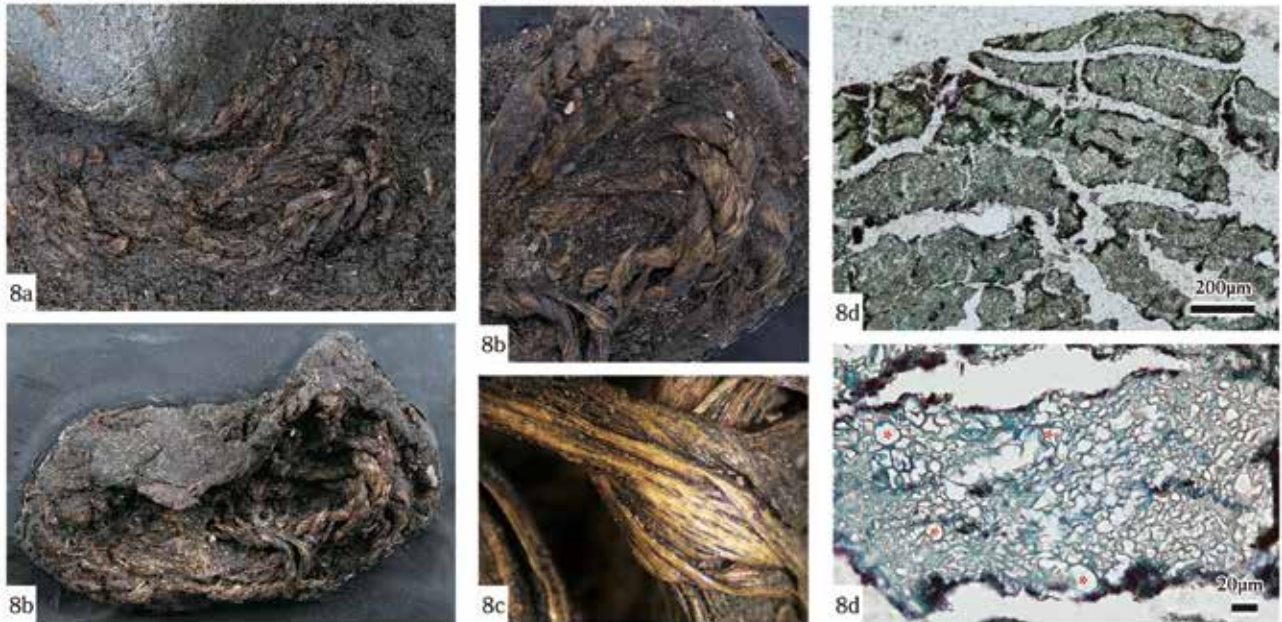
○第4期共同研究

中居遺跡出土藍胎漆器や編組製品の編組技法からみた縄文時代の技術知の解明を目的とした。

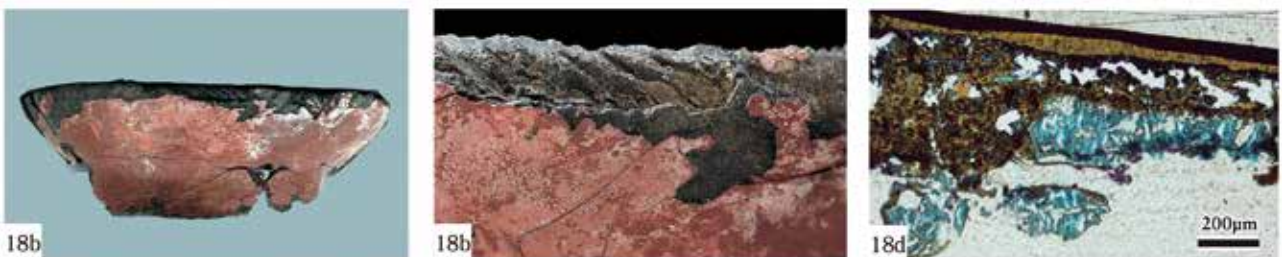
中居遺跡から豊富に出土している編組製品・繊維製品・藍胎漆器を総合的に研究し、素材植物種、素材加工技術を含む編組技法を解明し、その上で藍胎漆器のかごを復元製作した。

中居遺跡出土品 22 点の素材植物種の同定は、遺物の出土時にサンプリングした素材を、樹脂包埋切片法により再分析したものである。藍胎漆器はタケ亜科、縄はシナノキ属樹皮、編布はアサ靱皮繊維など、道具による素材の使い分けを確認した。

No.8 重文 H-176 (ID885) 縄 (本体) シナノキ属 (AOM-10358)

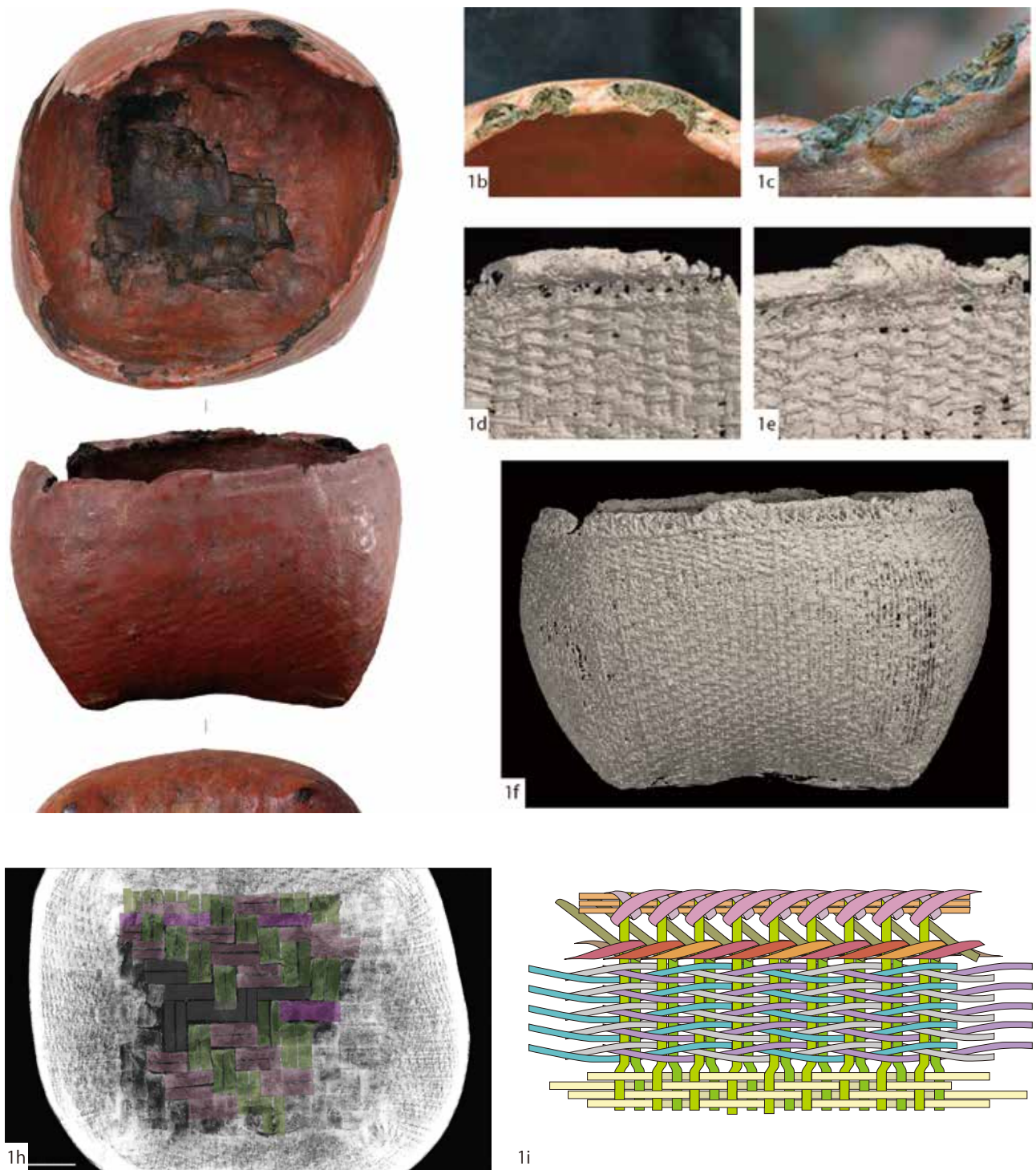


No.9 重文 H-177 (ID886) 漆漉し布 (本体) アサ (AOM-10359)



a: 遺物出土状況, b: 遺物保存処理後, c: 保存処理後の素材のデジタルマイクロスコープ像, d: 横断面の顕微鏡写真. 15d の px: 原生木部腔, mx: 後生木部道管, ph: 一次篩部.

さらに、X線CT撮影データの解析と遺物の詳細計測及び観察により、籃胎漆器5点の編組技法を解明した。中居遺跡の籃胎漆器は、1ミリ幅の細いへギ材を作り、複数の技法により製作されていた。一部は完成時に縄文土器の特徴が出るよう、技法を使い分けてかごを製作していた可能性を指摘した。中居遺跡において、道具毎に素材を選定していることや、復元製作から素材の採取を最適期に行うなど、植物資源を利用する高度な知識と技術があったことを明らかにした。これらの成果は是川縄文館研究紀要及び2024（令和6）年度特別展で公開した。



図版4 中居遺跡出土の籃胎漆器No.1（ID344）とそのX線CT像、デジタルマイクロスコープ像

第4期共同研究（是川縄文館『研究紀要』第14号より）

X線 CT でしらべよう! 協力: 東北大学総合学術博物館

藍胎漆器とともに仙台へ行きました

特別な車で移動します

東北大学総合学術博物館

回転台にセットして撮影します

X線 CT 撮影装置 ScanXmate -D18ORS270

藍胎漆器をやさしく、しっかりと固定し、おおよそ30分かけて回転しながら撮影していきます

段階画像データ...1000枚以上にスライスされている

8. X線 CT 解析による編組技術の解明

X線 CT を用いれば、文化財の内部を非破壊的にデジタルで評価できます。得られたデータをコンピュータ解析することで、任意の部位の断面画像から劣化状態を診断できます。また、任意構造の立体画像を作成することで、その文化財の製作方法を理解することができます。

X線 CT を用いた文化財の観察は、縄文時代の漆製品に特に効果的です。例えば、藍胎漆器の断面画像の観察から、表層の顔料や漆を素材とする部分が比較的遺存している一方で、編組の素材部分が劣化により消失していることがわかります。この消失した空洞部分が編組の構造そのものであり、これを立体画像として再構築することで、目視では見えない藍胎漆器の編組技術を観察できます。

見えるまで何度も調整します

顔料部分

漆部分

編組の構造 (劣化により消失)

藍胎漆器断面画像

編組構造の立体画像をつくる! 協力: 弘前大学人文社会科学部北日本考古学センター

CT 画像は、ある方向からみた場合、厚みに応じた枚数の CT 画像があります。本藍胎漆器の場合、1,689 枚です。これらを個別に観察することで、詳細な内部の状態が理解できます。観察の結果、編組の大部分が、劣化により消失していて、空洞となっていることがわかりました。

編組部分 (= 空洞部分) を立体視する手順を説明します。

まず、1,689 枚の CT 画像に対して (以下同様)、藍胎漆器の全部分 (関心領域 A) を範囲設定します。左図は、1 枚の CT 画像を例示しています。赤い部分が関心領域 A です。画像演算のため、関心領域 A を 2 値化します。

編組部分 (= 空洞部分) (関心領域 B) を範囲設定します。右図の白い部分が関心領域 B ですが、空洞部分は範囲設定しているため、編組以外の空間も範囲設定されてしまっています。関心領域 B を 2 値化します。

関心領域 A (藍胎漆器の全部分) の範囲設定内における関心領域 B (編組部分 + 空間) を画像演算により表示させます。そうすると、空間を除外できます。得られた 2 値化画像をすべてつなぎ合わせてサーフェスレンダリング法により表示させると編組部分の 3 次元画像が構築できます。

みえた!

X線 CT データの解析過程

(3) 展示公開

是川遺跡出土品は1929(昭和4)年1月に高島屋呉服店で開催された「日本原始文化展覧会」において初めて展示公開された。以後、オリンピック東京大会のほか、海外展4回など主要な展覧会に出品されており、是川遺跡出土品の重要性・貴重性の高さを伺うことができる。

令和8年1月現在までに、少なくとも述べ182件5,379点(うち重要文化財2,343点)が全国の企画展示等で展示公開された。内訳としては、国外の展示公開が4件31点(うち重要文化財27点)、市外の展示公開が119件2,103点(うち重要文化財1,221点)、市内の展示公開は63件3,276点(うち重要文化財1,122点)となっている。このほか、一覧に含めないが、1970(昭和45)年の日本万国博覧会(大阪万博 EXPO'70)に皿形土器1点を展示したという聞き取り情報がある。

表4 活用一覧 ※例言及び表末に凡例を記載

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
1	日本原始文化研究会 後援：東京日日新聞社	16	「日本原始文化展覧会」	東京京橋南傳馬町高島屋呉服店	1929/1/13 ～1/20	太刀型装飾品、石器時代弓3、木劔3、腕輪、朱塗櫛2、籠、籬椽、椀、木製品、編物、木製品残片
2	東京国立博物館	20	「日本古代文化展覧会」	東京国立博物館	1951/10/1 ～11/25	硬玉製小玉13、漆塗木製椀環、スタンブ形土製品、急須形土器、朱塗太長頸壺、瓶、太口壺、香爐形土器
3	青森県文化財保護協会・東奥日報社・青森県立図書館美術協会・青森県立図書館	10	「青森県名宝展」	青森県立図書館	1955/10/30 ～11/3	土器類十数点(漆塗り含む・詳細不明)
4	毎日新聞社 後援：東京国立博物館・財団法人世界デザイン会議	24	「古代のクラフト縄文美術品展」	日本橋白木屋	1960/5/10 ～5/15	遮光器、四形土器、注口土器(紅塗)、注口土器(黒塗)、細口壺(紅塗)、土偶頭部(端片)2、岩版2、滑車形耳飾粘土6、土偶頭部、へら状木製品8
5	五島美術館	15	「縄文・弥生・古墳土器名品特別展」	五島美術館	1962/3/27 ～5/6	壺形土器6、鉢形土器2、皿形土器2、注口土器2、台付土器、香炉形土器2
6	五島美術館	62 (60)	「青森県是川遺跡出土品展」	五島美術館	1962/6/19 ～7/29	土偶残欠2、土偶頭部残欠、注口土器8、壺形土器8、鉢形土器3、皿形土器、台付土器3、小形土器(注口)、小形土器、香炉形土器2、石皿、石器、石棒残欠、磨製石斧、石鏃2、打製石器6、篋形木製品(全形)、篋形木製品(頭部残欠)2、葦形土製品、藍胎漆器、赤漆櫛頭部残欠3、赤漆耳飾3、赤漆塗釧、玉類5、土製耳飾3
7	日本経済新聞社	3 (3)	「新発見・未公開名品展」	日本橋三越?	1962?	土器3
8	東京国立博物館	4 (4)	オリンピック東京大会「日本古美術展」	東京国立博物館	1964/10/1 ～11/10	注口土器、皿形土器、壺形土器、香炉形土器
9	青森県・青森県教育委員会	42 (42)	明治百年記念事業「青森県埋蔵文化財展」	青森県立図書館	1968/10/23 ～10/27	注口土器2、浅鉢形土器、壺形土器3、香炉形土器2、皿形土器、青竜刀形石器、岩版2、土製耳飾4、三角形磨製石器6、石刀、篋形木製品18、蔓製品
10	サントリー美術館	2 (2)	春の特別展「土偶と土面」	サントリー美術館	1969/3/18 ～5/4	顔面付岩版、渦巻文岩版
11	東京国立博物館	18 (18)	特別展「日本の武器武具」	東京国立博物館	1976/10/5 ～11/23	赤漆塗弓、石鏃15、石槍2
12	東京国立博物館	7 (7)	特別展「東洋の漆工芸」	東京国立博物館	1977/10/8 ～11/23	赤漆塗太刀様木製品、藍胎漆器、赤漆塗壺形土器4、赤漆塗注口土器

活用一覧(2)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
13	青森県立郷土館	20	常設展示	青森県立郷土館	1981/5/16～ 1982/4/30	鉢形土器5、台付土器6、浅鉢形土器、 壺形土器2、注口土器6
14	東北歴史資料館	262 (213)	「縄文の美－ 八戸市是川遺 跡展」	東北歴史資料館	1982/8/10 ～10/10	鉢形土器10、甕形土器6、皿形土器 8、壺形土器17、台付土器7、注口 土器14、香炉形土器4、土偶5、土 製耳飾4、石鏃35、石錐9、石匙6、 石斧4、石剣、石棒2、玉類79、石 皿2、台付石皿、岩版4、篋形木製品 5、弓(赤漆)、弓(白木)、赤漆麁尾 様木製品、籃胎漆器、赤漆釧5、赤漆 櫛7、琥珀、アスファルト、水藻、ト チの実、サンショの種子、酸化鉄(大・ 小)、小形土器9、泥炭層、漆のつ いた土器2、アスファルトの入った土器 2、ベンガラの入った土器、つる製品
15	長野市立博物館	19 (15)	開館3周年記 念特別企画展 「縄文人のく らし」	長野市立博物館	1984/10/7 ～11/25	天然アスファルトの入った土器、赤漆 塗櫛7、赤漆塗耳飾り3、赤漆塗木製 の腕輪4、ヘラ形木製品4
16	東京国立博物館	2 (2)	特別展「日本 の陶磁」	東京国立博物館	1985/10/15 ～11/24	雲形文皿、朱彩小形壺
17	栃木県立博物館	26 (24)	第23回企画展 「祈りの原像－ 縄文時代のま つりと道具」	栃木県立博物館	1988/4/29 ～6/15	イモ貝状土製品2、ヘラ状木製品6、 岩版2、彩色された土器10、土偶2、 土製耳飾4
18	東京国立博物館	10 (10)	特別展「日本 の考古学－そ の歩みと成果 －」	東京国立博物館	1988/10/4 ～11/13	赤漆塗壺2、籃胎漆器、赤漆塗耳飾3、 赤漆塗釧2、漆塗弓、飾り太刀
19	石川県立歴史博 物館	11 (8)	秋季特別展 「漆－うつわ の文化史－」	石川県立歴史 博物館	1988/10/15 ～11/13	漆塗壺形土器4、漆塗鉢形土器2、漆 塗注口土器、漆塗台付土器、漆入土器 2、ベンガラ入土器
20	文化庁	5 (5)	「日本陶磁の 源流展」	ニューヨーク IBM ギャラ リー	1990/12/11 ～2/9	注口土器、土製耳飾り4
21	文化庁	5 (5)	海外展「古代 の日本」/ ANCIENT JAPAN	ワシントン DC アーサー・M・ サックラー ギャラリー	1992/8/9～ 11/1	赤漆塗弓、注口土器、壺形土器、鉢形 土器、台付土器
22	大阪府立弥生文 化博物館	24 (21)	平成5年春季 特別展「みち のく弥生文 化」	大阪府立弥生 文化博物館	1993/4/10 ～6/13	遮光器土偶、石棒、土器9、篋形木製 品2、櫛5、磨製石斧2、石皿、磨石 ほか
23	青森県立郷土館	18 (13)	開館20周年 記念特別展 「漆の美 日 本の漆文化と 青森県」	青森県立郷土館	1993/9/17 ～10/17	赤漆塗り壺形土器3、赤漆塗り鉢形土 器2、赤漆塗り注口土器、装飾赤漆塗 り高坏、赤漆塗り太刀形木製品、黒漆 塗り弓、赤漆塗り櫛7、漆入り鉢形土 器、ベンガラ塊入り壺形土器
24	岩手県立博物館	37 (26)	第8回国民文 化祭記念・第 37回企画展 「じょうもん 発信展」	岩手県立博物館	1993/10/1 ～11/14	イモ貝形土製品5、土偶3、滑車形耳 飾り10、ヒスイ垂飾り、漆塗り土器2、 篋状木製品6、飾り弓、漆塗壺形土器 4、漆塗鉢形土器、漆塗台付鉢形土器、 岩版3

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
25	茨城県立歴史館	3 (3)	特別展「東国の土偶」	茨城県立歴史館	1994/2/5～ 3/21	土偶3
26	国立歴史民俗博物館	46 (36)	企画展示「漆文化－縄文・弥生時代－」	国立歴史民俗博物館	1994/3/15 ～5/15	櫛(漆塗り)7、耳飾り(木製漆塗り)3、漆塗り木製品(太刀)、漆塗り木製品(弓)2、漆塗り木製品(高坏)、漆塗り樹皮製品(容器)一括、赤彩土偶、漆塗り土器(壺形)6、漆塗り土器(鉢形)、漆塗り土器(台付土器)、漆塗り土器(注口土器)2、漆塗り土器(香炉形土器)、壺形土器2、漆塗り土器9、注口土器、漆液容器(土器)3、アスファルトが入った土器、朱が入った土器、ベンガラが入った土器、ベンガラが付着した石皿
27	斎宮歴史博物館	7 (4)	春季企画展「日本の櫛－別れの御櫛によせて－」	斎宮歴史博物館	1995/4/29 ～6/4	結歯漆塗堅櫛7
28	青森県立郷土館	27	特別展「縄文の造形 青森県の先史文化財展」	青森県立郷土館	1995/6/15 ～7/9	中居出土木製品他
29	福岡市博物館	30 (17)	開館5周年記念特別企画展「縄文時代展－自然とともに生きた人々 対外交流史Ⅱ」	福岡市博物館	1995/9/23 ～11/12	磨石、石皿2、磨石と石皿、漆を入れた土器、赤色顔料を入れた土器、漆塗注口土器、漆塗り壺3、香炉形土器、高坏形土器、飾り弓、イモ貝形土製品9、琥珀、滑車形耳飾り6、アスファルトの入った土器
30	茨城県立歴史館	5 (5)	特別展「音の考古学－音具と鳴器の世界」	茨城県立歴史館	1995/11/7 ～12/17	鈴形土製品、篋形木製品4
31	小山市立博物館	16 (13)	第33回企画展「縄文時代の自然と祈り」	小山市立博物館	1996/7/21 ～9/8	壺形土器、皿形土器、注口土器、台付土器、香炉形土器、飾り太刀、篋状木製品4、土偶、石棒・石剣2、アスファルトの入った土器、スプーン状土製品2
32	「縄文まほろば博」実行委員会	2	「縄文まほろば博」	三越美術館	1996/07/25 ～8/25	イモガイ状土製品2
				ATC アジア太平洋 トレードセンター	1996/09/14 ～10/6	
				斎藤報恩会自然 史博物館	1996/10/13 ～11/4	
				青森産業会館	1996/11/10 ～11/24	
33	東北歴史資料館	8 (5)	企画展「東北地方の土偶」	東北歴史資料館	1996/10/18 ～11/25	土偶、遮光器土偶4、イモガイ形土製品3
34	財団法人岩手県文化振興事業団	5 (5)	第44回企画展「イーハトーブの食文化」	岩手県立博物館	1996/10/26 ～11/24	壺形土器2、鉢形土器2、台付土器
35	遠野市立博物館	16 (16)	第35回特別展「縄文の暮らしと精神文化」	遠野市立博物館	1997/8/1～ 9/23	壺形土器、鉢形土器、赤漆釧残欠共5、篋状木製品4、土偶3、岩版2

活用一覧 (4)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
36	大宮市立博物館	4 (3)	第21回特別展「縄文人の顔～土偶・土面から見た素顔～」	大宮市立博物館	1997/10/10 ～11/30	遮光器土偶頭部(台座付)、遮光器土偶(台座付)、結髪土偶(台座付) 2
37	大阪府立弥生文化博物館	10 (5)	平成10年春季特別展「縄紋の祈り・弥生の心ー森の神から稲作の神へー」	大阪府立弥生文化博物館	1998/4/25 ～6/28	きのご形土製品、土偶、岩版4、イモガイ状土製品4
38	大田区立郷土博物館	5 (4)	平成10年度特別展「製作工程の考古学」	大田区立郷土博物館	1998/6/7～ 7/12	漆塗壺形土器、漆塗台付浅鉢形土器、漆液容器(土器)、漆塗土偶、ベンガラ付着石皿
39	下妻市ふるさと博物館	9	第5回企画展「大地への祈り～縄文の呪具」	下妻市ふるさと博物館	1998/7/25 ～9/6	土偶6、岩偶3
40	北九州市立考古博物館	12 (12)	開館15周年記念特別展「西と東の縄文土器ー土器が語る縄文時代の日本列島ー」	北九州市立考古博物館	1998/9/12 ～10/11	壺形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、台付土器、注口土器、香炉形土器、小形土器・注口、小形土器・鉢形、小形土器・皿形、壺形・漆塗土器、台付土器、皿形土器
41	北海道開拓記念館	16 (10)	第47回特別展「うるし文化ー漆器が語る北海道の歴史ー」	北海道開拓記念館	1998/9/18 ～11/3	赤色漆塗壺形土器、赤色漆塗鉢形土器、赤色漆塗櫛7、赤色漆塗弓、漆の入った土器、ベンガラ入りの土器、石皿、朱入土器、赤色漆塗台付土器、黒色壺形土器
42	大阪市立博物館	6 (5)	平成10年度特別展「木と人ー出土木製品にみる人の知恵ー」	大阪市立博物館	1998/9/22 ～11/8	漆塗腕輪5、漆の入った土器
43	文化庁	4 (4)	「JOMON L'art du japon des origines (縄文展)」	パリ市/ 日本文化会館	1998/9/28 ～11/28	注口土器、鉢形土器、壺形土器、台付土器
44	鹿児島市教育委員会	25	平成10年度企画展「炎と祈りの縄文文化ー東北地方と鹿児島ー」	鹿児島市立ふるさと考古歴史館	1998/10/10 ～11/23	壺形土器3、鉢形土器3、皿形土器2、注口土器3、台付土器3、土偶7、岩偶3
45	青森県立郷土館	19 (19)	特別展「至高の縄文祭祀芸術ー注口土器と土偶ー」	青森県立郷土館	1999/6/18 ～7/20	注口土器16、土偶3
46	東京国立博物館	6 (5)	特別展「日本列島60万年ー考古遺物でつづる歴史絵巻ー」	東京国立博物館平成館考古展示室	1999/10/12 ～2000/3/26	漆塗壺形土器2、漆塗台付土器、漆塗鉢形土器、漆塗弓、籃胎漆器残片

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
47	青森県文化観光立県宣言記念イベント実行委員会	12	活彩あおり'99 あおり発見ミュージアム「三内丸山と北の歴史街道」ゾーン	東京ドーム	1999/11/26 ～11/28	土器7、土偶5
48	東京国立博物館	6 (5)	平常陳列	東京国立博物館平成館考古資料展示室	2000/4/1～ 2001/3/31	藍胎漆器破片、漆塗太刀状木製品、漆塗壺形土器3、漆塗鉢形土器
49	東北歴史博物館	27 (24)	特別展「縄文時代の日本列島」	東北歴史博物館	2000/4/29 ～6/4	岩版2、壺形土器4、石皿、ベンガラ入土器、スプーン形土製品、篋状木製品6、皿形土器3、滑車状耳飾り3、漆塗り腕輪5、サンショウ種子
50	川崎市市民ミュージアム	28 (25)	企画展「縄文の華」	川崎市市民ミュージアム	2000/9/9～ 10/22	壺形土器3、鉢形土器2、皿形土器、台付土器2、注口土器2、櫛7、篋形木製品6、土製耳飾り3、石棒・石刀2、香炉形土器
51	東京国立博物館	8 (8)	特別展「土器の造形－縄文の動・弥生の静－」	東京国立博物館平成館特別展示室	2001/1/30 ～3/11	朱漆塗壺形土器2、朱漆塗注口土器、朱漆塗台付鉢形土器、壺形土器2、注口土器、浅鉢形土器
52	東京国立博物館	2 (2)	平常陳列	東京国立博物館平成館考古資料展示室	2001/4/1～ 2002/3/31	壺形土器、台付土器
53	宮城県一迫町埋蔵文化財センター	6	山王岡遺跡国指定30周年事業特別展「うるしー縄文の美ー」	宮城県一迫町埋蔵文化財センター山王ろまん館	2001/9/8～ 11/4	赤色漆塗土器3、ベンガラ入り土器、腕輪、漆入土器
54	奥松島縄文村歴史資料館	13	企画展「縄文の漆」	奥松島縄文村歴史資料館	2001/10/6 ～12/24	赤漆塗壺形土器5、壺形土器(黒色処理)、注口土器(黒色処理)3、壺形土器、注口土器、皿形土器、朱入り小壺
55	東京国立博物館	4 (4)	平常陳列	東京国立博物館平成館考古展示室	2002/4/1～ 2003/3/31	壺形土器2、台付土器、鉢形土器
56	福島県立美術館・福島民報社	3 (3)	福島民報創刊110周年記念「東北の美ー縄文から現代までー」	福島県立美術館	2002/8/31 ～10/14	壺形土器2、注口土器
57	上田市立信濃国分寺資料館	19	特別展覧会「三内丸山遺跡と信濃の縄文文化ー青森県と長野県の縄文時代ー」	上田市立信濃国分寺資料館	2002/9/14 ～11/4	鉢形土器2、壺形土器8、注口土器5、浅鉢形土器3、台付鉢形土器
58	山梨県立考古博物館	25 (24)	20周年記念特別展「技と美の誕生ー名宝でつづる縄文文化ー」	山梨県立考古博物館	2002/10/12 ～11/24	甕形土器、壺形土器4、鉢形土器3、皿形土器、注口土器3、台付土器2、香炉形土器、ベンガラ壺、土製耳飾り3、腕輪5、弓
59	株式会社創童舎	3	東北電力グリーンプラザ リニューアルオープン記念企画展「東北と縄文展」	東北電力グリーンプラザ	2002/11/25 ～12/13	注口土器、漆塗り土器、漆の入った土器

活用一覧 (6)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
60	株式会社創童舎	1	東北電カグリーンプラザ とうほく文化情報コーナーの企画展示「東北の縄文土器」	東北電力グリーンプラザ	2002/12/19 ～ 2003/3/4	注口土器
61	三内丸山遺跡対策室	2	輝け 北の縄文 2003 「全国縄文シンポジウム」展	八戸市公会堂	2003/1/19	櫛 (レプリカ)、耳飾り (レプリカ)
62	茨城県立歴史館	26 (21)	特別展「器が語る装いの美ー漆に彩られた縄文の美」	茨城県立歴史館	2003/2/8～ 3/23	鉢形土器、注口土器、壺形土器 5、黒色壺形土器、皿形土器 3、漆入土器 3、ベンガラ入土器、朱入土器、耳飾 3、腕輪 5、弓、飾り太刀
63	東京国立博物館	4 (4)	平常陳列	東京国立博物館平成館考古展示室	2003/4/1～ 2004/3/31	壺形土器 2、台付土器、鉢形土器
64	青森県立郷土館	131 (95)	開館 30 周年 特別展「青森県の文化財」	青森県立郷土館	2003/6/1～ 7/27	壺形土器 3、鉢形土器、皿形土器、注口土器 4、台付土器、香炉形土器 2、赤色漆塗り櫛 5、赤色漆塗り耳飾り 3、腕輪 5、飾り太刀、赤色漆塗り弓、漆入り土器、ベンガラ入り土器、コハク 2、土偶 2、岩版 2、土製耳飾り 2、イモガイ状土製品 2、玉類 79、石槍 3、異形石器、磨製石斧 2、磨製篋形石器 2、石剣、石棒、石刀、石皿 2
65	青森県立郷土館	8	企画展「あおもり新発見 2003」	青森県立郷土館	2004/2/6～ 3/14	漆塗り櫛、漆塗り弓、漆塗り鉢、耳栓 (レプリカ)、漆塗り腕輪、斧の柄、石鏃の刺さった板、有柄へら状木製品
66	安城市歴史博物館	28 (28)	埋蔵文化財センターオープン記念「縄文・弥生の遺産」	安城市歴史博物館	2004/2/14 ～ 3/28	甕形土器、壺形土器 3、鉢形土器 2、皿形土器、注口土器 4、台付土器 2、香炉形土器、小形土器 6、飾り太刀、篋形木製品、土偶 2、土製耳飾り 3、石剣
67	東京国立博物館	4 (4)	平常陳列	東京国立博物館平成館考古展示室	2004/4/1/～ 7/10	壺形土器 2、台付土器、鉢形土器
68	文化庁	12	「発掘された日本列島 2004 新発見考古速報」	東京都江戸東京博物館	2004/6/1～ 7/7	ヤス 4、弓、掘り棒、赤漆塗木製鉢、香炉形土器、赤漆塗台付鉢、赤漆塗注口土器、赤漆塗壺形土器、浅鉢形土器
				群馬県立歴史博物館	2004/7/13 ～ 8/15	
				花巻市博物館	2004/8/21 ～ 9/19	
				石川県立歴史博物館	2004/9/25 ～ 10/24	
				奈良市美術館	2004/10/30 ～ 11/28	
				高知県立歴史民俗資料館	2004/12/4～ 2005/1/10	
神戸市立博物館	2005/1/16 ～ 2/20					

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
69	文化庁	17 (13)	「曙光の時代 ー日本考古学 の連続と変革 ー」	マンハイム市/ ライス・エンゲ ルホヌ考古学 民俗学博物館	2004/7/25 ～10/24	赤漆塗土器2、赤漆塗注口土器、赤漆 塗飾弓、ベンガラ入り壺形土器、漆貯 蔵鉢形土器、漆濾し編布2、赤漆塗腕 輪5、赤漆塗櫛、赤漆塗耳飾3
				ベルリン市/ マルテン・グロー ピウス・パウ	2004/11/20 ～2005/1/31	
				奈良国立博物館	2005/3/23 ～5/8	
70	徳島県立博物館	43 (30)	「縄文の美ー 亀ヶ岡文化の 世界ー」	徳島県立博物館	2005/4/26 ～5/29	甕形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、皿 形土器、台付土器、壺形土器3、注口 土器2、香炉形土器、漆の入った土器、 石皿、ベンガラの入った土器、朱の入っ た土器、赤漆塗り鉢形土器、赤漆塗り 台付鉢形土器、赤漆塗り壺形土器2、 木胎漆器鉢、飾り太刀、弓、櫛3、木 製耳飾り、腕輪2、篋形木製品6、遮 光器土偶、土偶、岩版3、イモガイ状 土製品2、土製耳飾り2
71	国立歴史民俗 博物館	30	「水辺と森と 縄文人ー低湿 地遺跡の考古 学ー」	国立歴史民俗 博物館	2005/6/14 ～7/31	漆塗樹皮製曲物2、ヤス中柄、弓、掘 り棒、木製品や木の実を出土する土層 (剥ぎ取り)、赤色漆塗木製浅鉢、赤色 漆塗木製鉢、藍胎漆器壺、漆塗木製耳 飾、漆塗装身具、漆塗腕輪、朱漆塗腕輪、 飾り大刀、漆塗台付き土器浅鉢、赤 色漆塗土器壺、漆塗櫛3、編布(漆を こした布)、赤色漆塗飾り弓、ベンガ ラ漆塗飾り弓、石鏃の刺さった板、斧 柄2、有柄篋状木製品(掘り棒)、柄 頭状木製品、漆塗樹皮製曲物(複製)、 木胎漆器台付皿(復元品)、木胎漆器 鉢(復元品)
				東北歴史博物館	2005/8/12 ～9/25	
				新潟県立 歴史博物館	2005/10/8 ～11/27	
				八戸市博物館	2005/12/10 ～2006/1/15	
72	花巻市博物館	15 (14)	第3回企画展 「縄文の美」	花巻市博物館	2005/7/16 ～8/28	皿形土器、注口土器2、漆塗壺形土器、 漆塗鉢形土器、漆塗注口土器、漆塗弓、 飾り太刀、漆塗櫛5、岩版、土版
73	国立科学博物 館・国立歴史民 俗博物館・読売 新聞社	6	特別展 「縄文 VS 弥 生」	国立科学博物館	2005/07/16 ～8/31	注口土器、浅鉢形土器、深鉢形土器、 壺形土器、鉢形土器、台付土器
74	弘前大学 人文学部	20	亀ヶ岡文化研 究センター開 設記念 ミニ 特別展「亀ヶ 岡文化の世界」	弘前大学人文 学部附属亀ヶ 岡文化研究セ ンター展示室	2005/10/29 ～11/28	注口土器2、壺形土器6、台付土器2、 鉢形土器2、注口土器3、堅果類サン プル(トチ、クルミ)、レプリカ(櫛)、 レプリカ(容器)、注口土器(複製)、 アンギン(複製)
75	一戸町 教育委員会	1	縄文の森フェ スタ 2005 「耳飾りー縄文 と世界のアク セサリー展」	御所野 縄文博物館	2005/11/12 ～1/15	木製漆塗り耳飾り(複製)
76	茨城県立歴史館	10 (10)	平成18年度 特別展「縄文 のムラ 弥生 の村ーいにし え人の暮らし と文化ー」	茨城県立歴史館	2006/9/30 ～11/19	壺形土器8、台付土器2

活用一覧 (8)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
77	青森県立美術館	19 (13)	開館記念展第2弾「縄文と現代 二つの時代をつなぐ <かたち> と <こころ>」	青森県立美術館	2006/10/7 ～ 12/10	土偶4、岩版3、イモガイ状土製品3、甕形土器2、壺形土器2、注口土器5
78	北海道 開拓記念館	22 (22)	第62回特別展「北の縄文－美の世界－」	北海道 開拓記念館	2006/10/27 ～ 12/3	壺形土器3、注口土器、香炉形土器、石皿（足付）、飾り太刀、漆塗り弓2、漆塗り腕輪5、篋形木製品6、岩版2
79	青森県教育委員会・大阪歴史博物館	30 (26)	特別企画展「あおもり縄文まほろば展」	大阪歴史博物館	2007/2/11 ～ 2/18	壺3、注口土器2、鉢、皿、台付土器2、香炉形土器、土偶5、漆入り土器、篋形木製品6、漆塗り櫛（レプリカ）3、漆塗り腕輪5
80	市立函館博物館	24	特別企画展「蘇る北の縄文ロードー発掘された縄文の世界ー」	市立函館博物館本館展示室	2007/7/1～ 8/19	ベンガラの入った土器、漆の入った土器、アスファルトの入った土器、イモガイ状土製品3、木胎漆器（鉢）復元製作品、木胎漆器（台付皿）復元製作品、木胎漆器（浅鉢）復元製作品、木胎漆器（皿）復元製作品、木胎漆器（鉢）復元製作品、樹皮製容器（無文）復元製作品、樹皮製容器（彩文）復元製作品、漆塗り耳飾り（大）復元製作品、漆塗り耳飾り（小）復元製作品、藍胎漆器復元製作品、ヤス（レプリカ）5、漆塗り櫛（レプリカ）3
81	国立歴史民俗博物館	13 (2)	特別企画「弥生はいつから?! 一年代研究の最前線ー」展	国立歴史民俗博物館	2007/7/3～ 9/2	石刀2、有脚土器、縄文晩期土器7、弥生土器3
82	岩手県 教育委員会	5 (3)	北の縄文文化回廊づくり事業展覧会「北の縄文文化回廊展」	岩手県立博物館	2007/7/14 ～ 8/26	壺形土器、注口土器、香炉形土器、イモガイ形土製品2
				御所野 縄文博物館	2007/9/5～ 9/30	
83	一戸町 教育委員会	26	一戸町合併50周年記念事業「縄文から続く北の漆文化展」	御所野 縄文博物館	2007/11/10 ～ 12/2	木胎漆器（鉢）復元製品、木胎漆器（台付皿）復元製品、木胎漆器（浅鉢）復元製品、木胎漆器（皿）復元製品、木胎漆器（鉢）復元製品、樹皮製容器（無文）復元製品、樹皮製容器（彩文）復元製品、漆塗り耳飾り（大）復元製品、漆塗り耳飾り（小）復元製品、藍胎漆器復元製品、漆塗り弓復元製品、漆塗り樹皮製容器（無文）レプリカ、漆塗り樹皮製容器（無文）レプリカ、漆塗り樹皮製容器（彩文）レプリカ、ヤス・レプリカ6、漆塗り耳飾り（大）レプリカ、漆塗り耳飾り（小）レプリカ、漆塗り櫛レプリカ4
84	兵庫陶芸美術館	26 (25)	特別展「縄文ーいにしへの造形と意匠ー」	兵庫陶芸美術館	2008/3/15 ～ 6/1	深鉢形土器、壺形土器6、台付鉢形土器5、浅鉢形土器2、皿形土器2、注口土器3、小形土器（壺形土器）、小形土器、小形土器（鉢形土器）3、土偶2

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
85	松戸市立博物館	30 (27)	平成 20 年度 特別展「縄文 時代の東・西」	松戸市立博物館	2008/10/11 ～12/7	甕形土器、壺形土器 2、鉢形土器、皿 形土器 2、注口土器 2、台付土器、香 炉形土器、小形土器 3、腕輪 5、弓、 土偶 2、岩版、土製耳飾 2、イモガイ 状土製品 3、石刀 2、石皿
86	奥松島縄文村歴 史資料館	22	第 43 回企画 展「縄文人と わざとこころ」	奥松島縄文村 歴史資料館	2009/3/29 ～5/24	赤漆塗台付浅鉢、赤漆塗注口土器、赤 漆塗壺形土器、木胎漆器（台付皿）復 元、木胎漆器（鉢）復元、木胎漆器（鉢） 復元、樹皮製容器（彩文）復元、木胎 漆器（台付皿）レプリカ、木胎漆器 （鉢）レプリカ、木胎漆器（鉢）レプ リカ、漆塗樹皮製容器（彩文）レプリカ、 漆塗り弓レプリカ、ヤス レプリカ 2、 ヤス先レプリカ、漆塗り腕輪レプリカ 2、漆塗り耳飾り（小）レプリカ、漆 塗り耳飾り（大）レプリカ、漆塗り櫛 レプリカ 3
87	苫小牧市博物館	19	平成 21 年度 特別展「縄文 美の極み～ 亀ヶ岡文化～」	苫小牧市博物館	2009/7/11 ～8/23	注口 4、壺 3、台付鉢 3、広口壺、鉢 2、 岩版 2、浅鉢 3、香炉
88	仙台市富沢遺跡 保存館 地底の 森ミュージアム	25	平成 21 年度 特別企画展 「漆の考古学」	仙台市富沢遺 跡保存館	2009/7/17 ～9/23	ヤス（複製）2、漆濾し布 2、漆貯蔵 土器、漆塗り弓（複製）、漆塗り弓（復 元製作）、漆塗り櫛（複製）2、漆塗 り耳飾（複製）2、漆塗り土器、漆塗 り腕輪（複製）、樹皮製容器（複製）、 樹皮製容器（復元製作）、木胎漆器（浅 鉢）（複製）、木胎漆器（浅鉢）（復元 製作）、木胎漆器（台付皿）（複製）、 木胎漆器（台付皿）（復元製作）、木胎 漆器（鉢）（複製）、木胎漆器（鉢）（復 元製作）、籃胎漆器（壺・小）（複製）、 籃胎漆器（壺・小）（復元製作）、籃胎 漆器（壺・大）（複製）、籃胎漆器（壺・ 大）（復元製作）
89	東北歴史博物館	15 (15)	平成 21 年度 東北歴史博物 館開館 10 周 年記念特別展 「東北の群像 ーみちのく祈 りの名宝ー」	東北歴史博物館	2009/9/18 ～11/1	注口形土器、赤漆塗り壺形土器、香炉 形土器、壺形土器 2、台付鉢形土器、 皿形土器 3、土製耳飾り 6
90	鹿児島県歴史資 料センター黎明 館	30 (12)	企画特別展 「古代のロマ ン北南～三内 丸山 VS 上野 原」	鹿児島県歴史 資料センター 黎明館	2009/9/19 ～11/3	注口土器 3、壺形土器、甕形土器 2、 香炉のような形の土器、台付土器 2、 鉢形土器 3、ベンガラ貯蔵土器、木製 腕輪（レプリカ）、木製櫛（レプリカ）、 耳飾り（レプリカ）、木胎漆器皿（レ プリカ）、遠賀川系甕形土器 2、埋設 土器、管玉 10

活用一覧(10)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
91	青森県立郷土館	29 (12)	平成21年度特別展「北海道・北東北の縄文～ひと・暮らし・まつり・交流」	青森県立郷土館	2009/10/20～11/23	ヤス軸レプリカ3、漆塗弓レプリカ2、石斧柄レプリカ、赤漆塗り耳飾りレプリカ2、赤漆塗り腕輪レプリカ、赤漆塗り櫛レプリカ2、木胎漆器レプリカ、漆塗り樹皮製品レプリカ(表側)、漆塗り樹皮製品レプリカ(裏側)、漆塗り樹皮製品復元品、赤漆塗壺形土器、鉢形土器、人面付き小型土器、籠形木製品6、赤漆塗飾り太刀、遮光器土偶、イモガイ状土製品2
92	奥松島縄文村歴史資料館	5	第44回企画展「縄文人のあこがれ 貝のアクセサリー -縄文の貝の道-」	奥松島縄文村歴史資料館	2010/3/6～5/9	イモガイ形土製品5
93	市立函館博物館	14	平成22年度特別展「縄文の至宝-世界遺産をめざす15遺跡と土偶-」	市立函館博物館	2010/7/24～9/26	赤漆塗り樹皮製容器(復元・複製)、赤漆塗り木製腕輪(複製)、赤漆塗り耳飾り(複製)、赤漆塗り木製櫛(複製)、赤漆塗り木製浅鉢(複製)、赤漆塗り弓(複製) 赤漆塗り壺形土器2、赤漆塗り台付浅鉢形土器、赤漆塗り壺形土器、赤漆塗り注口土器、注口土器、漆入り浅鉢形土器
94	福島市教育委員会	4	特別展「縄文人の祈りの世界」	福島市資料展示室企画展示室	2011/10/4～12/28	土偶4
95	青森県立郷土館	1	特別展青森県博物館ロード「青い森の宝 石箱-県内博物館名品大集合!!-」	青森県立郷土館	2011/12/9～2012/1/29	赤漆塗り樹皮製容器(復元)
96	北海道開拓記念館	2 (1)	北海道新聞社70周年記念事業・北海道開拓記念館40周年記念事業「北の土偶-縄文の祈りと心-」	北海道開拓記念館	2012/3/6～5/13	遮光器土偶2
97	MIHO MUSEUM	3 (3)	「土偶・コスモス」	MIHO MUSEUM	2012/9/1～12/9	赤彩注口土器、赤彩壺形土器、足を曲げる土偶
98	一戸町教育委員会	61	平成24年度企画展「縄文時代の墓～北海道・北東北の縄文遺跡の墓の調査から見えてきた縄文社会～」	御所野縄文博物館	2012/9/15～10/14	土坑墓出土玉類61点
99	鹿角市教育委員会	6	是川縄文館平成24年秋季企画展交換展示	大湯ストーンサークル館	2012/10/2～12/7	鉢形土器、壺形土器、赤色漆塗壺形土器1、台付鉢形土器、注口土器2
100	國學院大學学術史料館	1	企画展「身体に見立てられた土器」	國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館	2013/2/25～3/30	顔面装飾付把手

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
101	青森県の縄文遺跡群「世界遺産をめざす会」	5	「青森県の縄文遺跡展」	青森県観光物産館アスパム	2013/7/8～7/21	赤漆塗壺形土器、赤漆塗腕輪（複製品）、赤漆塗耳飾（複製品）、赤漆塗櫛（複製品）、鉢形木胎漆器（複製品）
102	伊達市教育委員会	7	「北海道・北東北の縄文遺跡群」	北黄金貝塚情報センター	2013/11/1～11/30	赤漆塗り樹皮製容器（復元）、櫛（レプリカ）、耳飾り（レプリカ）、腕輪（レプリカ）、壺形土器、鉢形土器、浅鉢形土器
103	縄文遺跡群世界遺産登録推進本部	15	縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム	八戸市ポータルミュージアム はっち	2014/10/23～10/24	皿形土器、漆塗り壺形土器、壺形土器、注口土器3、遮光器土偶5、土偶、岩偶3
104	国立歴史民俗博物館	2	「大ニセモノ博覧会－贋造と模倣の文化史－」	国立歴史民俗博物館	2015/3/10～5/6	イモガイ形土製品2
105	新潟日報社	1	イベント「ふむむタイムスリップ ふむむ縄文まつり」	新潟日報メディアシップ	2015/7/1～8/31	篋形木製品（復元製作）
106	九州国立博物館	3	文化交流展示「海の道、アジアの道」（平常展）	九州国立博物館	2016/3/18～4/20	イモガイ状土製品3
107	国立歴史民俗博物館	13 (10)	「URUSHI ふしぎ物語－人と漆の12000年史－」	国立歴史民俗博物館	2017/7/11～9/3	漆濾し布、ベンガラ容器（壺形容器）、赤色顔料のついた石皿、水銀朱入り壺形土器、漆塗り腕輪、櫛2、耳飾り2、樹皮製容器3、樹皮製容器復元品
108	一戸町教育委員会	2	平成29年度企画展「えっ！縄文時代にアスファルト？－縄文の生産と流通～東日本のアスファルト－」	御所野縄文博物館	2017/11/18～12/17	ヤス軸柄（複製）、ヤス先（複製）
109	東京国立博物館	12 (10)	特別展「縄文－1万年の美の鼓動」	東京国立博物館平成館	2018/7/3～9/2	壺形土器4、注口土器2、台付土器、鉢形土器、皿形土器、香炉形土器、イモガイ形土製品2
110	東北歴史博物館	13 (3)	平成30年度夏季特別展「タイムスリップ！縄文時代」	東北歴史博物館	2018/7/21～9/24	掘り棒、ヤス軸柄、繊維製品等（縄）、繊維製品等（漆濾し布）、ベンガラの入った土器、サンショウ、クルミ（袋入り）2、クルミ・トチ（袋入り）、柄に装着した石斧（復元品）、挟み込み式ヤス（復元品）、挟み込み式ヤス（複製品）、篋形木製品（複製品）
111	一戸町教育委員会	1	企画展示「縄文から続くカシオペアの伝統文化」	御所野縄文博物館	2018/11/9～11/18	籃胎漆器（復元）
112	新潟県立歴史博物館	43 (37)	特別展「国民の文化財あ、コレ知っている！はにわ、どぐう、かえんどの昭和平成」	新潟県立歴史博物館	2019/9/14～11/4	飾り太刀、飾り弓、漆塗り櫛7、篋形木製品10、籃胎漆器、樹皮製容器残欠、土偶7、甕形土器（深鉢）3、壺形土器、漆塗り壺形土器、注口土器2、香炉形土器2、皿形土器2、脚付石皿、赤色顔料付石皿、漆容器、赤色顔料容器

活用一覧 (12)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
113	文化庁 文化財第二課 埋蔵文化財部門	3	「発掘され た日本列島 2020 新発 見考古速報」	東京都江戸 東京博物館	2020/6/6 ~ 8/10	壺形土器、台付土器、注口土器
				新潟県立 歴史博物館	2020/8/22 ~ 9/27	
				福島県立博物館	2020/10/10 ~ 11/15	
				一宮博物館	2020/11/28 ~ 12/27	
	中津市 歴史博物館	2021/1/16 ~ 2/21				
114	苫小牧市 美術博物館	5	特別展「縄文= 現代 ~共鳴す る美のかたち」	苫小牧市 美術博物館	2023/7/15 ~ 9/3	土偶 5
115	三内丸山遺跡 センター	3	特別展「三内 丸山と漆」	三内丸山遺跡 センター	2023/7/21 ~ 9/18	朱容器、腕輪(レプリカ)、弓(レプリカ)
116	北海道博物館	24 (23)	第9回特別展 「ユネスコ世 界遺産登録記 念 北の縄文 世界と国宝」	北海道博物館 特別展示室	2023/7/22 ~ 10/1	台付浅鉢形土器(赤色漆塗)、鉢形土 器(赤色漆塗)、台付皿形土器(赤色 漆塗)、壺形土器(赤色漆塗)、注口土 器(赤色漆塗)、皿形土器、鉢形土器2、 台付鉢形土器、壺形土器2、皿形土器、 香炉形土器、注口土器、遮光器土偶、 漆塗り飾り太刀、漆塗弓2、漆塗腕輪 2、漆塗櫛2、石斧柄(複製)、石斧
117	十日町市博物館	21 (5)	令和6年度 秋季特別展 「JAPANの ルーツ-雪ふ る縄文と世界 遺産-」	十日町市博物館	2024/9/28 ~ 11/10	注口土器3、壺形土器7、岩版、浅鉢 形土器、耳飾、香炉型土器、皿形土器、 腕輪(複製)、櫛(複製)2、耳飾小(複 製)、木胎漆器(複製)、弓(複製)
118	宮古市 教育委員会	4	崎山貝塚縄文 の森ミュージ アム企画展「近 内中村遺跡の 聖なる世界」	崎山貝塚縄文 の森ミュージ アム	2025/1/11 ~ 3/16	鉢形土器、注口土器2、香炉型土器
119	東北歴史博物館	23 (9)	特別展「世界 遺産 縄文」	東北歴史博物館	2025/7/12 ~ 9/15	壺形土器、鉢形土器、台付土器、藍胎 漆器、木胎漆器、弓、土偶、掘り棒、 石斧柄、磨製石斧、木胎漆器(レプリ カ)、弓(レプリカ)、耳飾り(レプリカ)、 櫛(レプリカ)、腕輪(レプリカ)、掘 り棒(レプリカ)、石斧柄(レプリカ)、 樹皮製容器大(復元品)、藍胎漆器鉢 (復元品)、木胎漆器鉢(大)(復元品)、 木胎漆器台付皿(復元品)、弓(復元品)、 ヤス軸柄(レプリカ)
				京都文化博物館	2025/10/4 ~ 11/30	磨製石斧、木胎漆器(レプリカ)、弓(レ プリカ)、耳飾り(レプリカ)、櫛(レ プリカ)、腕輪(レプリカ)、掘り棒(レ プリカ)、石斧柄(レプリカ)、樹皮製 容器大(復元品)、藍胎漆器鉢(復元品)、 木胎漆器鉢(大)(復元品)、木胎漆器 台付皿(復元品)、弓(復元品)、ヤス 軸柄(レプリカ)
				群馬県立 歴史博物館	2026/1/17 ~ 3/8	磨製石斧、木胎漆器(レプリカ)、弓(レ プリカ)、耳飾り(レプリカ)、櫛(レ プリカ)、腕輪(レプリカ)、掘り棒(レ プリカ)、石斧柄(レプリカ)、樹皮製 容器大(復元品)、藍胎漆器鉢(復元品)、 木胎漆器鉢(大)(復元品)、木胎漆器 台付皿(復元品)、弓(復元品)、ヤス 軸柄(レプリカ)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
120	八戸市博物館	32 (26)	第4回特別展 「土偶－縄文 人の祈り－」	八戸市博物館	1984/7/29 ～9/24	中空土偶頭部6、中空土偶10、土偶 16
121	八戸市博物館	175 (175)	第6回特別展 「縄文の美－ 是川中居遺跡－」	縄文学習館	1985/1/10 ～2/27	へら形木製品、木製弓、飾り太刀、櫛、 腕輪、耳飾、甕形土器、壺形土器、注 口土器、台付土器、皿形土器、鉢形土 器、香炉形土器、小型土器、石鏃、石匙、 磨製石斧、土偶、土製耳飾、石棒
122	八戸市博物館	38 (29)	開館5周年記 念特別展・第 21回特別展 「縄文の漆工 芸」	八戸市博物館	1988/7/31 ～9/4	赤色漆塗り壺形土器5、赤色漆塗り浅 鉢形土器2、赤色漆塗り注口土器、赤 色漆塗り鉢形土器2、赤色漆塗り木製 容器(高坏)2、赤色漆塗り木製容器 (鉢)3、樹皮製容器残欠、赤色漆塗 り飾り弓、籃胎漆器(鉢)、籃胎漆器 (壺)、籃胎漆器、赤色漆塗り櫛5、赤 色漆塗り耳飾3、赤色漆塗り木製腕輪 4、赤色漆塗り飾り太刀、漆液容器3、 石皿、べんがらが入った土器
123	八戸市博物館	50 (50)	第35回特別 展「縄文の美・ 是川」	八戸市博物館	1992/4/26 ～5/31	土偶、注口土器、甕形木製品、漆塗り 櫛ほか
124	八戸市博物館	10 (10)	開館10周年記 念特別展「伝統 の美－ふるさとの文化財」	八戸市博物館	1993/7/14 ～8/22	皿形土器、壺形土器、壺形土器、注口 土器、香炉形土器、土製耳飾3、赤色 漆塗木製腕輪2
125	縄文学習館	55	第1回企画展 「注口土器展」	縄文学習館	1995/2/22 ～5/28	注口土器
126	縄文学習館	42	第2回企画展 「土器の意匠 －雲形文」	縄文学習館	1995/6/1～ 10/29	
127	縄文学習館	67	第3回企画展 「土偶」	縄文学習館	1995/11/1～ 1996/5/30	土偶67
128	縄文学習館	47	第4回企画展 「縄文時代の 漆工」	縄文学習館	1996/6/1～ 10/30	
129	縄文学習館	-	第5回企画展 「是川中居遺跡 と八幡遺跡」	縄文学習館	1996/11/1～ 1997/5/30	
130	縄文学習館	40	第6回企画展 「土器の使わ れ方」	縄文学習館	1997/6/1～ 10/30	
131	縄文学習館	-	第7回企画展 「是川中居遺跡 と坵渡遺跡」	縄文学習館	1997/11/1～ 1998/5/31	
132	縄文学習館	40	第8回企画展 「是川中居遺 跡の石器」	縄文学習館	1998/6/2～ 10/30	
133	縄文学習館	-	第9回企画展 「泉山遺跡と 是川中居遺跡」	縄文学習館	1998/11/1～ 1999/5/30	
134	縄文学習館	60	第10回企画 展「是川中居 遺跡の土偶」	縄文学習館	1999/6/1～ 10/31	土偶60

活用一覧(14)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
135	縄文学習館	-	第11回企画展 「山井遺跡と是 川中居遺跡」	縄文学習館	1999/11/2～ 2000/5/30	
136	縄文学習館	61	第12回企画 展「是川中居 遺跡の壺」	縄文学習館	2000/6/1～ 10/29	壺形土器 61
137	縄文学習館	-	第13回企画展 「滝端遺跡と是 川中居遺跡」	縄文学習館	2000/11/1～ 2001/5/30	
138	縄文学習館	45	第14回企画展 「是川中居遺跡 の漆塗り土器」	縄文学習館	2001/6/1～ 10/30	漆塗り土器 45
139	縄文学習館	-	第15回企画展 「亀ヶ岡遺跡と 是川中居遺跡」	縄文学習館	2001/11/1～ 2002/5/30	
140	縄文学習館	46	第16回企画展 「是川中居遺跡 の台付土器」	縄文学習館	2002/6/1～ 10/30	台付土器 46
141	縄文学習館	-	第17回企画展 「沖中遺跡と是 川中居遺跡」	縄文学習館	2002/11/1～ 2003/5/30	
142	八戸市観光課	3	東北新幹線八戸 開業記念展示	八戸駅ビル 2階	2002/11/21 ～2003/3/20	壺形土器、台付鉢形土器、注口土器
143	八戸市美術館	124 (96)	新幹線八戸駅 開業記念特別 展「縄文の美 と関頑亭の世 界」	八戸市美術館	2002/11/30 ～12/15	土偶6、壺形土器、鉢形土器2、浅鉢 形土器2、深鉢形土器2、注口土器4、 台付土器3、香炉形土器、岩版、土版、 石槍3、石棒6、石皿、玉類79、籃 胎漆器、櫛3、飾り大刀、弓、篋状木 製品6
144	縄文学習館	28	第18回企画 展「是川中居 遺跡の皿」	縄文学習館	2003/6/1～ 10/30	皿形土器 28
145	縄文学習館	58	第19回企画 展「是川中居 遺跡の新発見」	縄文学習館	2003/11/1～ 2004/5/30	
146	縄文学習館	41	第21回企画 展「是川中居 遺跡の土偶」	縄文学習館	2004/8/10 ～10/31	土偶 41
147	縄文学習館	207	第22回企画 展「是川中居 遺跡の石器」	縄文学習館	2004/11/2～ 2005/5/29	石器 207
148	縄文学習館	50	第24回企画展 「是川中居遺跡 の注口土器」	縄文学習館	2005/11/5～ 2006/5/30	注口土器 50
149	縄文学習館	34	第26回企画 展「是川中居 遺跡の壺」	縄文学習館	2006/10/28 ～2007/5/27	壺形土器 34
150	八戸市教育委員会 文化課	4	「是川遺跡パ ネル展」	まちの駅はちのへ 市民ギャラリー	2007/10/25 ～10/31	木胎漆器復元製品、耳飾りレプリカ 3
151	縄文学習館	30	第30回企画展 「是川中居遺跡 の植物質製品」	縄文学習館	2008/10/25 ～2009/5/24	木製品・繊維製品 30

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
152	八戸市博物館	9	第78回特別展「土偶展—東北の北と南—」	八戸市博物館	2009/6/13 ～7/26	遮光器土偶8、X型土偶
153	縄文学習館	32	第31回企画展「縄文後期の是川遺跡」	縄文学習館	2009/10/24 ～2010/5/23	
154	縄文学習館	58 (53)	第34回企画展「是川中居遺跡の土偶」	縄文学習館	2010/10/23 ～2011/5/8	土偶58
155	八戸市博物館	1 (1)	平成24年度夏季特別展「縄文人の一生」発掘された日本列島 新発見考古速報2012 地域展	八戸市博物館	2012/8/8～ 9/17	石鏃の刺さった板
156	八戸市博物館	1	特別展「三陸—豊かな海の歴史と民俗—」	八戸市博物館	2013/9/28 ～11/10	木製ヤス(復元品)
157	是川縄文館	3 (3)	平成26年度特別展「トーテムポールの人びと～漁労・狩猟採集民のくらし～」	是川縄文館	2014/8/1～ 9/15	ヤス軸柄、ヤス先かえし部、ヤス先
158	是川縄文館	30 (7)	平成27年度特別展「漆と縄文人」	是川縄文館	2015/7/25 ～9/6	壺形土器4、台付浅鉢形土器、籃胎漆器(壺)、装身具2、弓、木胎漆器(浅鉢)復元製作品、木胎漆器(鉢)復元製作品、樹皮製容器復元製作品、注口土器、浅鉢形土器2、ウルシ2、漆液容器6、漆パレット、壺形土器(顔料付着)、土器(朱成分検出)4、腕輪(朱成分検出)
159	是川縄文館	213	「八戸の土偶」発掘された日本列島 新発見考古速報2017 地域展	是川縄文館	2017/8/5～ 9/18	土偶210、人面把手1、獣面把手2
160	是川縄文館	28 (12)	平成29年度秋季企画展「是川縄文ムラを観る・描く—人と風と草木のものがたり—」是川縄文館・東京大学共同研究展示	是川縄文館	2017/10/14 ～11/26	木製容器、掘り棒、飾り太刀、加工材4、弓3、ヤス軸柄、ヤス先部材、他16点
161	是川縄文館	3	平成30年度特別展「海を渡る縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」	是川縄文館	2018/7/21 ～9/2	壺形土器、磨製石斧、壺形土器(朱貯蔵)

活用一覧 (15)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
162	是川縄文館	15	平成30年度秋季企画展「どうぶつと縄文人」	是川縄文館	2018/10/6 ～11/25	弓(複製品)2、ヤス軸柄(複製品)2、他11点
163	是川縄文館	22 (16)	令和元年度特別展「北の縄文世界ー北海道・北東北の縄文遺跡群ー」	是川縄文館	2019/7/20 ～9/8	加工木材(クリ材)2、トチノキ、遮光器土偶4、岩偶、岩版2、注口土器3、壺形土器、鉢形土器、壺形土器、漆濾し布2、漆液容器2、ウルシ2
164	是川縄文館	67 (56)	令和元年度秋季企画展「山のいとなみ」	是川縄文館	2019/10/5 ～11/24	大型木柱、丸材、割材、板材2、先端加工木材(アサダ)、先端加工木材(クリ)、挟り入り棒、漆塗り弓、漆塗り弓3、漆塗り弓(レプリカ)、ヤス(レプリカ)、ヤス、掘り棒3、飾り大刀、木製容器、石斧柄5、磨製石斧5、小型磨製石斧5、木製鉢未成品(トチノキ)、漆濾し編布、漆液容器、籃胎漆器、木胎漆器2、木胎漆器台付皿(トチノキ)、木胎漆器浅鉢(トチノキ)、漆塗り樹皮製容器破片(ケヤキ)25
165	是川縄文館	205 (44)	「縄文・かたちの美ー是川遺跡の壺形土器ー」	是川縄文館	2019/12/14 ～2020/4/17	壺形土器205
166	是川縄文館	119 (79)	令和2年度夏季企画展「泉山兄弟と是川遺跡」	是川縄文館	2020/8/18 ～9/6	壺形土器6、鉢形土器4、皿形土器、注口土器4、台付土器、香炉形土器2、釣手付土器、土偶2、土版、石鏃6、石槍3、石錐3、石匙3、磨製石斧3、石皿、岩版、石棒、石剣、青竜刀形石器、籃胎漆器、篋形木製品2、飾り大刀、木胎漆器、浅鉢形土器、台付土器3、香炉形土器2、小形土器2、土偶5、耳飾り2、土鈴、環状土製品、飾り大刀、木製容器、掘り棒、繊維製品、環状石製品2、石刀2、独鈷石、岩版2、他40点
167	是川縄文館	143 (49)	「縄文・かたちの美ー是川遺跡の注口土器ー」	是川縄文館	2020/12/12 ～2021/5/5	注口土器143
168	是川縄文館	154 (107)	令和3年度特別展・開館10周年記念特別展「是川遺跡」	是川縄文館	2021/7/10 ～8/31	青竜刀形石器、土偶3、香炉形土器、土製耳飾り2、注口土器8、香炉形土器、鉢形土器4、台付鉢形土器3、浅鉢形土器4、皿形土器、鉢形土器、壺形土器7、遮光器土偶3、小型土偶、土偶、棒状土製品、環状土製品、石鏃2、石錐3、石匙2、異形石器、磨製石斧2、打製石斧2、加工礫、敲石、磨石、円盤状石製品3、石皿3、石棒2、石刀2、環状石製品、岩版2、石斧柄、ヤス軸柄、ヤス先、ヤス先部材、掘り棒、弓、ヤス軸柄3、飾り大刀(未成品)、木製容器2、木製容器、鉢形土器(漆貯蔵)、台付鉢(漆貯蔵)、壺形土器(漆精製)、赤漆塗り弓(ヘラ)、石皿、壺形土器(漆塗り)4、鉢形土器、注口土器(漆塗り)2、台付土器(漆塗り)2、籃胎漆器2、木胎漆器、漆塗り樹皮製容器、木製漆塗耳飾り2、独鈷石、壺形土器2、他48点

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
169	是川縄文館	46 (17)	令和3年度秋季企画展 「装い一身を飾る人びと」	是川縄文館	2021/10/16 ～11/28	櫛(複製品)、土偶3、漆塗り腕輪(複製品)2、勾玉(ヒスイ)、環状石製品2、環状土製品、装飾品(複製品)2、土製耳飾り、土偶2、垂飾品(クマ)、漆塗り耳飾り(複製品)2、玉5、ボタン状石製品、管玉(碧玉)10、紅皿、鉢形土器5、注口土器、台付土器2、壺形土器、土製耳飾り2
170	是川縄文館	129 (61)	「縄文・かたちの美－是川遺跡の鉢形土器－」	是川縄文館	2021/12/11 ～2022/5/5	鉢形土器 129
171	八戸市美術館	4	「持続するモノガタリ－語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから」	八戸市美術館	2022/3/19 ～6/6	鉢形土器、皿形土器2、注口土器
172	是川縄文館	36 (17)	令和4年度特別展 「行きかう土器とヒト」	是川縄文館	2022/7/16 ～9/4	鉢形土器 12、注口土器 12、台付浅鉢形土器 2、壺形土器 4、深鉢形土器、台付浅鉢形土器 2、浅鉢形土器、甕
173	是川縄文館	34 (14)	令和4年度秋季企画展 「食と縄文人」	是川縄文館	2022/10/8 ～11/20	弓(複製品)、石槍、掘り棒(複製品)、ヤス軸柄(複製品)、キノコ形土製品、深鉢形土器、磨石、敲石、石皿3、石匙、赤色漆塗台付土器、木製脚付皿、赤色漆塗注口土器2、注口土器、他 17点
174	是川縄文館	51 (26)	「縄文・かたちの美－是川遺跡の皿形土器－」	是川縄文館	2022/12/10 ～2023/5/7	皿形土器 39、鉢形土器、台付土器、壺形土器 2、注口土器、香炉形土器、木胎台付皿レプリカ、耳飾りレプリカ、耳飾り 3、木胎浅鉢レプリカ
175	是川縄文館	8 (2)	令和5年度特別展 「北陸の晩期縄文文化」	是川縄文館	2023/7/15 ～9/3	壺形土器、土器片(浅鉢形土器) 3、注口土器、遮光器土偶 3
176	八戸市博物館	13	開館40年記念 秋季特別展 「J-mode 縄文の流儀」	八戸市博物館	2023/10/7 ～11/26	壺形土器 4、注口土器 3、浅鉢形土器 1、皿形土器 2、台付土器 3
177	是川縄文館	84 (34)	「縄文・かたちの美－是川遺跡の土製品－」	是川縄文館	2023/12/16 ～2024/5/6	土偶 16、キノコ形土製品、土鈴 3、岩版、土版、環状土製品 3、土製耳飾り 6、棒状土製品 3、他 50点
178	是川縄文館	35 (23)	令和6年度特別展 「縄文の編み／組みの探究」第4期共同研究展示	是川縄文館	2024/7/13 ～9/8	編組製品(把手か)、素材束、編組製品(縄) 2、編組製品(編布) 2、編組製品 2、籃胎漆器(鉢) 2、籃胎漆(壺) 4、籃胎漆器(浅鉢)、籃胎漆器(器種不明) 2、鉢形土器 2、壺形土器 2、小形土器 2、他 12点

活用一覧 (17)

No.	主催	点数 (重文)	展覧会名	会場	会期	資料名
179	八戸市博物館	1	「えと展－へび－」	八戸市博物館	2024/12/4～ 2025/1/31	動物形把手付土器
180	是川縄文館	159 (66)	「縄文・かたちの美－是川遺跡の石器・石製品－」	是川縄文館	2024/12/14 ～2025/3/23	石皿 10、小形の石皿、磨石 5、敲石 4、磨製石斧 8、打製石斧 3、石槍 2、石匙 7、石錐 4、磨製筥形石器、筥形石製品、岩版 7、石棒 8、玉類 21、環状石製品 2、青竜刀形石器、独鈷石 2、円盤状石製品 3、異形石器 4 ほか 65 点
181	是川縄文館	16	令和 7 年度特別展「貝へのあこがれ」	是川縄文館	2025/7/12 ～9/7	イモガイ状土製品 14、深鉢形土器 2
182	是川縄文館	168 (49)	「縄文・かたちの美－是川遺跡のミニチュア土器－」	是川縄文館	2026/1/10 ～5/6	小形土器（注口） 27、（壺） 45、小形（深鉢） 1、（鉢） 22、（浅鉢） 2、（台付） 10、（皿） 7、（釣手）、（片口）、（香炉）、（異形）、注口土器、壺形土器 7、鉢形土器 3、浅鉢形土器、台付土器 3、皿形土器 1、石皿、小形石皿 3、石鏃 9、磨製石斧 2、小形磨製石斧 6

(凡例)

※主催・会場・資料名は、当時の利用先の名称に従っている。

※点数は重要文化財青森県是川遺跡出土品と是川中居遺跡出土品で縄文時代のもの、またはそのレプリカ・復元品をカウントしている。

※重文の点数は利用時に指定されていたものをカウントしている。



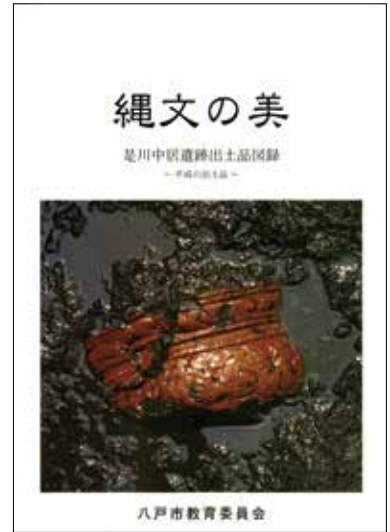
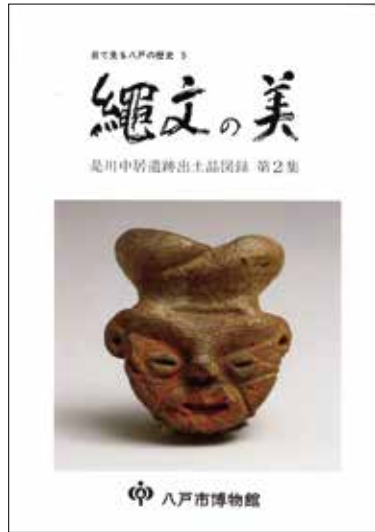
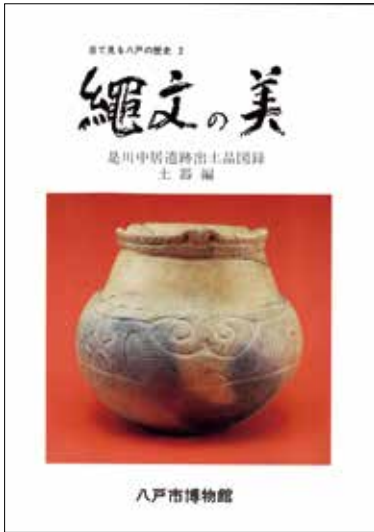
企画展「泉山兄弟と是川遺跡」展示風景（2020年）



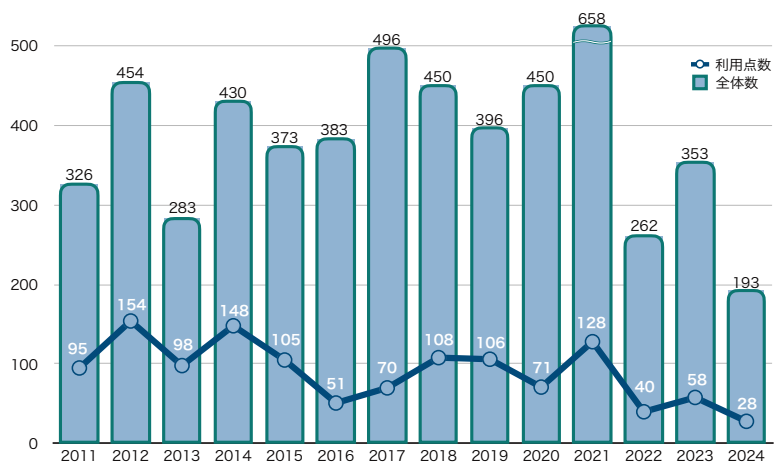
特別展「是川遺跡」展示風景（2021年）

○刊行物

是川遺跡出土品は、八戸市が刊行した「縄文の美」シリーズや「是川遺跡出土品目録」のほか、是川縄文館の常設展示図録や企画展示図録等に掲載されている。また、是川遺跡出土品の写真・画像は毎年、多数の利用申請があり、多様な書籍に掲載・活用されている。



是川遺跡出土品刊行物（一部）



是川遺跡出土品の画像利用（～2024年度）

地域連携など(1)

(4) 地域連携など

是川縄文館では、八戸市内の千葉学園高等学校生活文化科と連携し、是川遺跡出土品をデザイン化した縄文ドレスを製作したほか、アクセサリーやお菓子を開発し、一部をグッズ化して販売を行っている。縄文ドレスは、壺形土器、注口土器、皿形土器、遮光器土偶の4つが製作され、壺形土器の縄文ドレスはファッション甲子園2017で審査員特別賞を受賞した。遮光器土偶の縄文ドレスは、是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を記念して製作を依頼した。

アクセサリーは、ストラップやヘアゴムやブローチに縄文土器や耳飾りの文様をデザイン化した上で、八戸地域に伝わる「南部菱刺し」の技法を使って製作されたもので、考古資料と民俗文化財が融合したグッズの誕生となった。

お菓子は遮光器土偶をモチーフとしたクッキーを載せたり、チョコレートで土器文様を描いたマドレーヌをデザインしたもので、それを菓子店が製作して販売したものである。

このほか、世界遺産登録をPRするため、是川遺跡出土品を用いたバスラッピングを行った。イラストは市内の就労継続支援B型事業所の利用者に描いてもらい、デザイナーが仕上げたものであり、のぼり旗や、シールなどのグッズとしても展開している。



縄文ドレス (2018)



モデルの壺形土器



縄文ドレス (2020)



モデルの注口土器



モデルの皿形土器



縄文ドレス (2020)



縄文ドレス (2021)



モデルの土偶



マドレーヌ



アクセサリ製作風景

製作されたアクセサリ
企画展示図録『装い』より



ラッピングバス (2021)



縄文グッズ (2022)

○是川遺跡出土品をモデルにしたモニュメント

青森県総合運動公園の陸上競技場（青森市安田地区）に設置された聖火筒は、是川遺跡出土品の壺形土器がモデルとなっている。この聖火筒は、1966（昭和41）年に設置されたもので、当時の青森県工業試験所職員が地元の考古学者や、埼玉県鑄物試験所の指導を得て製作された。聖火筒は、1966（昭和41）年の高校総体と、1977（昭和52）年の第32回国民体育大会（あすなろ国体）の2回、火が灯された。

このほか、八戸公園内に遮光器土偶をモデルとした縄文親子像が1995（平成7）年に設置されるなど、是川遺跡出土品は展示以外でも、縄文のモニュメントの代表として活用されている。



青森県総合運動公園の聖火筒 (2019年撮影)



八戸公園の縄文親子像 (2012年撮影)



モデルの壺形土器

4. 参考文献

- 青森県立郷土館 1993 『漆の美 日本の漆文化と青森県』開館20周年記念特別展
- 青森県立郷土館 1999 『至高の縄文祭祀芸術－注口土器と土偶－』
- 青森県立図書館 1968 『青森県埋蔵文化財展 目録』
- 安城市歴史博物館 2004 『縄文・弥生の遺産』企画展埋蔵文化財センターオープン記念
- 石川県立歴史博物館 1988 『漆－うつわの文化史－』
- 茨城県立歴史館 1994 『東国の土偶』特別展
- 茨城県立歴史館 1995 『音の考古学－音具と鳴器の世界－』特別展
- 茨城県立歴史館 2003 『器が語る装いの美－漆に彩られた縄文の美－』特別展
- 茨城県立歴史館 2006 『縄文のムラ 弥生の村－いにしえ人のくらしと文化－』特別展
- 岩手県立博物館 御所野縄文博物館 2007 『北の縄文文化回廊 in 岩手2007』
- 岩手県立博物館 1993 『じょうもん発信展』第8回国民文化祭記念 第37回企画展図録
- 岩手県立博物館 1996 『イーハトーブの食文化』第44回企画展 第6回全国食文化交流プラザ
- 上田市立信濃国分寺資料館 2002 『三内丸山遺跡と信濃の縄文文化－青森県と長野県の縄文時代－』
- 大阪市立博物館 1998 『特別展 木と人－出土木製品にみる人の知恵－』
- 大阪府立弥生文化博物館 1993 『みちのく弥生文化』平成5年春季特別展
- 大阪府立弥生文化博物館 1998 『縄紋の祈り・弥生の心－森の神から稲作の神へ－』平成10年春季特別展
- 大田区立郷土博物館 1998 『特別展「製作工程の考古学」図録』
- 大宮市立博物館 1997 『縄文人の顔』第21回特別展図録
- 大山柏(編) 1929 『史前学雑誌』第一巻第一号 史前学会
- 岡村道雄(監修) 2025 『世界遺産縄文』東北放送株式会社
- 桶川市教育委員会 2021 『未来へ繋ぐ 縄文の美と技』重要文化財埼玉県後谷遺跡出土品保存修理事業
- 音喜多富寿 1955 『青森県名宝展出品解説』
- 小山市立博物館 1996 『縄文時代の自然と祈り』第33回企画展
- 鹿児島県歴史資料センター黎明館 2009 『古代のロマン北南－三内丸山 vs 上野原－』黎明館企画特別展
- 川崎市市民ミュージアム 2000 『「縄文の華」展図録』文化財保護法50年記念
- 北九州市立考古博物館 1998 『西と東の縄文土器－土器が語る縄文時代の日本列島－』開館15周年記念特別展
- 工藤健志(編) 2006 『縄文と現代 二つの時代をつなぐ「かたち」と「こころ」』青森県立美術館
- 国立科学博物館・国立歴史民俗博物館・読売新聞東京本社文化事業部 編 2005 『縄文 VS 弥生』特別展
読売新聞東京本社
- 国立歴史民俗博物館 1994 『漆文化－縄文・弥生時代－』企画展示
- 国立歴史民俗博物館 2005 『水辺と森と縄文人－低湿地遺跡の考古学－』
- 国立歴史民俗博物館 2007 『弥生はいつから?!－年代研究の最前線－』
- 国立歴史民俗博物館 2015 『大ニセモノ博覧会－贗造と模倣の文化史－』企画展示
- 国立歴史民俗博物館 2017 『URUSHI ふしぎ物語－人と漆の12000年史－』企画展示
- 御所野縄文博物館 2005 『耳飾り 縄文と世界のアクセサリ展』

- 御所野縄文博物館 2007 『縄文から続く北の漆文化』
- 御所野縄文博物館 2017 『「えっ！縄文時代にアスファルト？」展－縄文の生産と流通～東北日本のアスファルト－』平成 29 年度企画展図録
- 財団法人五島美術館 1962 『日本陶磁名宝シリーズ第 3 回 縄文・弥生・古墳土器名品特別展』
- 財団法人五島美術館 1962 『青森県是川遺跡出土品展』大塚工藝社
- 是川遺跡ジャパンロード調査実行委員会 2007 『是川遺跡ジャパンロード [漆の道] 報告書 2004-2006』東奥日報社
- 齋宮歴史博物館 1995 『日本の櫛－別れの御櫛によせて－』春季企画展
- サントリー美術館 1969 『土偶と土面』春の特別展
- 三内丸山遺跡センター 2023 『三内丸山と漆－暮らしを彩る技』特別展 展示図録
- 下妻市ふるさと博物館 1998 『大地への祈り～縄文の呪具』
- 「縄文まほろば博」実行委員会 1996 『縄文の扉 縄文まほろば博』公式ガイドブック
- 市立函館博物館 2007 『蘇る北の縄文ロード－発掘された縄文の世界－』国宝指定記念特別企画展
- 市立函館博物館 2010 『縄文の至宝－世界遺産をめざす 15 遺跡と土偶－』平成 22 年度特別展展示図録
- 仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム 2009 『漆の考古学』平成 21 年度特別企画展
- 東京国立博物館 1953 『日本考古圖録』朝日新聞社（別冊付録「日本古代文化展總目録」東京国立博物館）
- 東京国立博物館 1964 『オリンピック東京大会 日本古美術展』
- 東京国立博物館 1976 『特別展 日本の武器武具』
- 東京国立博物館 1977 『特別展 東洋の漆工芸』
- 東京国立博物館 1985 『特別展 日本の陶磁』
- 東京国立博物館 1988 『特別展 日本の考古学－その歩みと成果－』
- 東京国立博物館 2001 『土器の造形－縄文の動・弥生の静－』
- 東京国立博物館 2018 『特別展 縄文－1 万年の美の鼓動』
- 東北歴史資料館 1982 『縄文の美－八戸市是川遺跡展』
- 東北歴史資料館 1996 『東北地方の土偶』
- 東北歴史博物館 2000 『縄文時代の日本列島』春季特別展
- 東北歴史博物館 2009 『東北の群像 みちのく祈りの名宝』開館 10 周年記念特別展
- 東北歴史博物館 2018 『タイムスリップ！縄文時代』特別展
- 十日町市博物館 2024 『JAPAN のルーツ－雪ふる縄文と世界遺産－』秋季特別展
- 遠野市立博物館 1997 『縄文の暮らしと精神文化』
- 徳島県立博物館 2005 『企画展図録 縄文の美－亀ヶ岡文化の世界－』
- 栃木県立博物館 1988 『祈りの原像－縄文時代のまつりと道具－』第 23 回企画展
- 苫小牧市美術博物館 2024 『縄文≡現代～共鳴する美のかたち』特別展
- 長野市立博物館 1984 『縄文人の暮らし』開館 3 周年記念特別企画展
- 奈良国立博物館 2005 『曙光の時代－ドイツで開催した日本考古展－』
- 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 2005 『日本の考古学－ドイツで開催された「曙光の時代」展』

- 新潟県立歴史博物館 2019 『あ、コレ知っている！はにわ どぐう かえんどきの昭和平成』新潟日報事業社
毎日新聞社 1960 『古代のクラフト縄文美術展』
- 八戸市教育委員会（編） 2004 『2003 是川縄文シンポジウム記録集』東奥日報社
八戸市教育委員会（編） 2005 『2004 是川縄文シンポジウム記録集』東奥日報社
八戸市教育委員会（編） 2006 『2005 是川縄文シンポジウム記録集』東奥日報社
八戸市教育委員会（編） 2007 『2006 是川縄文シンポジウム記録集』東奥日報社
八戸市教育委員会（編） 2008 『2007 是川縄文シンポジウム記録集』東奥日報社
八戸市教育委員会 2011 『縄文の美 是川中居遺跡出土品図録－平成の出土品－』
- 八戸市博物館 1984 『土偶－縄文人の祈り－』特別展図録
八戸市博物館 1985 『縄文の美－是川中居遺跡出土品図録 土器編－』目で見える八戸の歴史2
八戸市博物館 1986・1990・1993～2012 『年報』第2・6・10～29号
八戸市博物館 1988 『縄文の漆工芸』開館5周年記念特別展図録
八戸市博物館 1988 『縄文の美－是川中居遺跡出土品図録 第2集－』目で見える八戸の歴史5
八戸市博物館 1993 『伝統の美～ふるさとの文化財』開館10周年記念特別展図録
八戸市博物館 1995 『八戸市縄文学習館 是川考古館・歴史民俗資料館 展示案内』
八戸市博物館 2013 『三陸－豊かな海の歴史と民俗』三陸復興国立公園指定記念特別展 展示図録
八戸市博物館 2023 『J-mode 縄文の流儀』八戸市博物館開館40年記念秋季特別展
- 八戸市美術館 2002 『縄文の美と関頑亭の世界』新幹線八戸駅開業記念特別展
八戸市美術館 2022 『持続するモノガタリ－語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから』
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2012 『常設展示図録』
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2012～2025 『研究紀要』第1～14号
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2012～2025 『年報』第1～14号
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2014 『トーテムポールの人びと～漁労・狩猟採集民の暮らし～』
平成26年度特別展図録
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2015 『漆と縄文人』平成27年度特別展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2017 『是川縄文ムラを観る・描く－人と風と草木のものがたり－』
平成29年度秋季企画展図録
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2018 『海を渡る縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～』平成30年度特
別展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2018 『どうぶつと縄文人』平成30年度秋季企画展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2019 『北の縄文世界－北海道・北東北の縄文遺跡群－』令和元年
度特別展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2019 『山のいとなみ』令和元年度秋季企画展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2020 『泉山兄弟と是川遺跡』令和2年度夏季企画展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2021 『是川遺跡』令和3年度特別展・開館10周年記念特別展図録
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2021 『装い－身を飾る人びと－』令和3年度秋季企画展図録

参考文献 (4)

- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2023 『行きかう土器とヒト』 令和4年度特別展図録
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2023 『食と縄文人』 令和4年度秋季企画展図録
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2023 『北陸の晩期縄文文化』 令和5年度夏季特別展図録
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2024 『縄文の編み／組みの探究－第4期共同研究展示－』 令和6年度特別展図録
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2025 『是川遺跡出土品目録泉山コレクション－土器・土製品－』
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2025 『是川遺跡出土品目録泉山コレクション－石器・石製品・漆製品・木製品・編組製品・骨角製品・植物遺存体・動物遺存体・その他－』
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2025 『貝へのあこがれ』 令和7年度特別展図録
- 花巻市博物館 2005 『縄文の美』 花巻市博物館第3回企画展
- 兵庫陶芸美術館 2008 『縄文－いにしへの造形と意匠－』
- 弘前大学人文学部 2006 『亀ヶ岡文化の世界』 ミニ特別展図録
- 福岡市博物館 1995 『縄文時代展－自然とともに生きた人々』 開館5周年記念特別企画展 対外交流史Ⅱ
- 福島県立美術館 2002 『「東北の美－縄文から現代まで－」展』 福島民報創刊110周年記念
- 文化財保護委員会 1968 『指定文化財修理報告書』 美術工芸品篇 昭和40年度
- 文化庁 1969 『指定文化財修理報告書』 美術工芸品篇 昭和41年度
- 文化庁 1970 『指定文化財修理報告書』 美術工芸品篇 昭和42年度
- 文化庁 1971 『指定文化財修理報告書』 美術工芸品篇 昭和43年度
- 文化庁 1974 『指定文化財修理報告書』 美術工芸品篇 昭和44年度
- 文化庁 1978 『指定文化財修理報告書』 美術工芸品篇 昭和45年度
- 文化庁 2004 『発掘された日本列島2004 新発見考古速報』 朝日新聞社
- 文化庁 2020 『発掘された日本列島2020 新発見考古速報』 共同通信社
- 北海道開拓記念館 1998 『うるし文化－漆器が語る北海道の歴史－』 第47回特別展
- 北海道開拓記念館 2006 『北の縄文 美の世界』 第62回特別展
- 北海道開拓記念館 2012 『北の土偶－縄文の祈りと心－』 北海道開拓記念館40周年記念事業・北海道新聞社70周年記念事業
- 北海道博物館 2023 『北の縄文世界と国宝』 ユネスコ世界遺産登録記念 北海道博物館第9回特別展
- 毎日新聞社 1960 『古代のクラフト 縄文美術展』
- 松戸市立博物館 2008 『縄文時代の東・西』 平成20年度特別展
- MIHO MUSEUM 2012 『土偶・コスモス』 羽鳥書店
- 山梨県立考古博物館 2002 『技と美の誕生～名宝でつづる縄文文化～展示図録』 開館20周年記念特別展
- Erica H.Weeder 1990 『The rise of a great tradition : Japanese archaeological ceramics from the Jomon through Heian periods (10,500 BC-AD 1185)』 Japan Society Gallery
- Pearson, · Richard J. · Doi Takashi 1992 『ANCIENT JAPAN』 Arthur M. Sackler Gallery
- Maison de la culture du Japon à Paris 1998 『Jōmon : l' art du Japon des origines, 29 septembre-28 novembre 1998, Maison de la culture du Japon à Paris.』 Maison De La Culture Du Japon

重要文化財
青森県是川遺跡出土品
活用報告書

令和8年3月31日 発行

編集

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

〒031-0023 青森県八戸市大字是川字横山1

TEL 0178 (38) 9511

